

メキシコ教育テレビ研修センター 巡回指導調査団報告書

平成6年3月

国際協力事業団
社会開発協力部

社協ニ
J R
94-021

メキシコ教育テレビ研修センター巡回指導調査団報告書

平成6年3月

国際協力事業団

615
79
SCS

JICA LIBRARY



1122413(6)

28396

メキシコ教育テレビ研修センター
巡回指導調査団報告書

平成6年3月

国際協力事業団
社会開発協力部

国際協力事業団

28396

序 文

メキシコの歴代政府は教育の普及と文盲撲滅に力を入れてきた。特に、現在のサリーナス大統領は教育の充実を国家開発の重要な柱にしている。

これら政策の下に、文部省教育番組制作局（UTE）は学校教育を始めとして、幼児教育や成人教育のためのテレビ番組を数多く制作してきた。しかし、ここ数年来、より多くの番組を制作する必要が生じてきたうえ質的にも制作技術が初歩的なため、制作要員の育成は緊急の課題となり、日本に技術協力を求めてきた。

これを受けてわが国は、テレビ番組制作を行う技術及び制作スタッフに対し、制作技術、テレビカメラ技術等の技術移転を行うこととなり、1991年4月から5年にわたるプロジェクト方式技術協力が開始された。

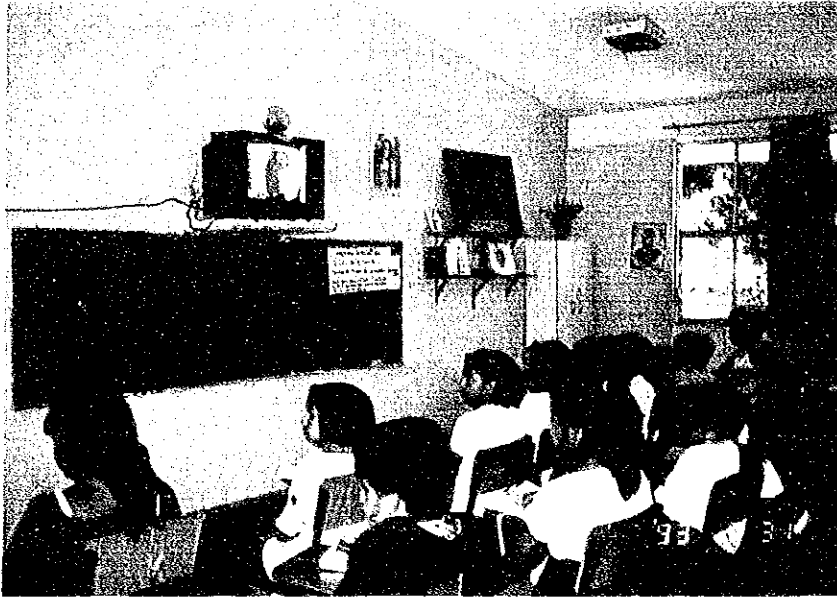
今般、プロジェクトの中間点に到達したので、協力期間前半のレビューを行い、あわせて今後の協力について協議することを目的にして、郵政省大臣官房国際部国際協力課安食課長補佐を団長とする巡回指導調査団を平成5年7月25日から8月7日までメキシコに派遣した。

本報告書は、同調査団による調査及び協議結果を取りまとめたものである。

ここに、調査の任に当たられた団員の方々、及びご協力いただいた外務省、郵政省、NHK、在メキシコ日本国大使館、その他関係機関の方々に心から感謝の意を表すると共に、今後のご支援をお願いする次第である。

平成5年12月

国際協力事業団
社会開発協力部
部長 石崎 光夫



テレビ中学校視察
(於 モレロス州
クエルナバカ)



合同委員会風景



カウンタパートによる
研修風景



鈴木短期派遣専門家（人形劇）
による講義風景

目 次

序 文
写 真
目 次

1. 巡回指導調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	2
2. 調査・協議結果とミニッツ	4
2-1 調査・協議結果の概要	4
2-2 ミニッツ	6
3. プロジェクトの進捗状況	88
3-1 投入計画と実績	88
3-2 プロジェクトの活動	89
4. プロジェクトの実施環境と実施体制	91
4-1 実施機関の組織	91
4-2 学校教育放送事情	91
附属資料	
メキシコ教育テレビ研修センターに関する	
① プロジェクト関連資料	95
② 中等教育に関する統計	155

1. 巡回指導調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

(1) 経緯

メキシコは、学校教育を始めとして幼児教育・成人教育においてもテレビ放送を活用した教育が重要視されている。しかしながら、未だ番組制作技術が初歩的なため教育効果を十分に発揮できない状況にある。このためメキシコ政府は教育番組を中心的に制作している文部省教育番組制作局（UTE）に対する技術協力を1988年に要請越した。なお、本件は1989年1月16日文部省で開催された国家教育近代化諮問委員会設置会議の席上サリナス大統領によって提唱された「国家教育通信システム（EDUVISION）」の計画の一環として位置付けられるものである。

これを受けて1989年12月に事前調査団派遣、また1991年1月に長期調査員派遣、続いて同年3月に実施協議調査団を派遣し正式にプロジェクトを同年4月1日より開始した。協力期間は1996年3月31日までの5年間である。

協力開始から今日までの調査団派遣の経緯は次の通りである。

- | | |
|---------|---|
| 計画打合せ調査 | スタジオ建設及び初年度機材据え付け後に調査団を派遣するのが望ましいと判断し、本調査団を派遣しないことにした。 |
| 巡回指導調査 | 1992. 9. 20～10. 2
スタジオ建設及び初年度機材据付けがほぼ順調に実施されたとの報告を受けて本調査団の派遣を実施した。 |
| 巡回指導調査 | 1993. 7. 25～8. 7
訓練コースが開講し、平成4年度機材の据付けも開始し、プロジェクト開始後2年3ヵ月を経過し協力期間の前半部分が終了するに際し、本調査団の派遣を決定した。 |

(2) 目的

協力開始後本年9月末で2年半を迎えるに際し、協力期間前半部分のレビューを行い今後の協力の進め方について、当初計画の修正及び追加措置等の必要性を含めて協議し、協力期間内に初期の協力目標が達成できるように調整をはかることを本調査団派遣の目的とする。

1-2 調査団の構成

- | | | | |
|----------|------|-------------------------|------|
| 1. 安食 伸一 | 総括 | 郵政大臣官房国際部国際協力課 | 課長補佐 |
| 2. 西村 大介 | 番組制作 | 日本放送協会海外企画局海外渉外 | 副部長 |
| 3. 小池不二男 | 放送技術 | 日本放送協会技術局施設業務部 | 部員 |
| 4. 篠山 和良 | 協力企画 | 国際協力事業団社会開発協力部社会開発協力第二課 | 職員 |

1-3 調査日程

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	7.25	日	成田⇒シカゴ	出 発
2	7.26	月	シカゴ⇒メキシコ	大使館、メキシコ国外務省表敬、JICA(事務所) 打ち合わせ
3	7.27	火	メキシコ	文部省表敬(官房長、初等中等教育担当副大臣、 教育番組制作局長、研修センター長) CETE、UTE視察
4	7.28	水	”	テレビサ(民放) カナルオンセ(国営)視察 専門家との打ち合わせ
5	7.29	木	”	メキシコ側と協議
6	7.30	金	”	「テレビ中学校」授業風景視察
7	7.31	土	”	アグアスカリエンテス局(州営)視察
8	8.1	日	”	団内打ち合わせ、資料整理
9	8.2	月	”	メキシコ側との協議、ミニッツ案作成
10	8.3	火	”	合同委員会、ミニッツ案作成
11	8.4	水	”	ミニッツ署名、大使館・JICA帰国報告
12	8.5	木	メキシコ⇒XXX	報告書作成
13	8.6	金	メキシコ⇒	移 動
14	8.7	土	⇒成田	帰 国

1-4 主要面談者

メキシコ外務省

MR. EFREN MARIN LOPEZ

科学技術協力局日本担当副部長

メキシコ文部省

MR. OLAC FUENTES MOLINAR

基礎教育担当次官

モレロス州チコンクアックテレビ中学校

MS. SILVIA PARRAL GUTIERREZ	モレロス州テレビ中学校部門部長
MS. MARIA QUIROZ VITE	モレロス州教育部門部長
MR. VALENTIN GAONA DE LEON	チコンクアックテレビ中学校校長
MR. MARTIMIANO OCAMPO CASTREJON	テレビ中学校教師

アグアスカリエンテス ラジオ・テレビ放送局 (6チャンネル)

MR. JORGE PAPADOMOTRIOU CAMARA	局長
MS. MARIA DEL CARMEN AMEZQUITA RUIZ	制作部長
MR. ENCARNACION ROMERO CARRASCO	技術部長
MR. URIEL LANDEROS PEREZ	技術副部長

テレビサ

MS. CRISTINA DE LA PARRA	業務部長
--------------------------	------

チャンネル11 (CANAL 11)

MS. ALEJANDRA LAJOUS	局長
MS. MAGDALENA ACOSTA	局長顧問
MS. FLOR DE MARIA HURTADO	営業・開発部長
MS. PATRICIA ARRIAGA	デザイン部長
MR. PEDRO IVAN MUÑOZ RODRIGUEZ	総務・財務部長
MR. SERGIO UZETA MURCIO	ニュース・報道番組部長
MR. EDUARDO GARCIA TRAVESI	技術部長

2. 調査・協議結果とミニッツ

2-1 調査・協議結果の概要

今回の巡回指導調査団は、1992年4月からスタートしたメキシコ教育テレビ研修センターに対するプロジェクト方式技術協力が本年9月末で技術協力期間の前半部分を終えることとなるため、これまでの協力状況のレビューを行うとともに今後の協力の進め方についてメキシコ文部省教育番組制作局及び研修センターと協議し、協力期間内に目標が達成できるように調整を図った。

調査団は、7月26日から8月4日までの間、「テレビ中学校」の現地視察、先方機関との協議をえて、今後双方が実施すべき事項等を確認した上でこれをミニッツに取りまとめ署名した。

なお、今回の協議等においてメキシコ側から、日本からの技術移転を活用した独自の研修コースの開催、他の中南米諸国に対する技術協力の展開、本プロジェクト方式技術協力終了後における新しい技術を利用した遠隔地教育の構想等に対する協力要請がある等、メキシコ側の本プロジェクトにかかる意欲は強く、日本の協力に対する期待は大きいものがあった。

また、メキシコ政府の技術協力の窓口機関である外務省技術協力局に対し今回の調査団の目的、調査・協議結果を説明し、本プロジェクトの今後の展開について理解と協力を求めた。

調査・協議概要は次のとおり。

(1) プロジェクトの進捗状況

昨年の巡回指導調査団訪問時には、CETEのスタジオも完成の期日も決まっておらず、研修コースの開始予定も大幅に遅れていたが、その後関係者の協力により1992年10月には幾つかのコースが開講し、12月8日には文部大臣の出席をえて開校式が行われた。

日本からの専門家の派遣は、長期・短期とも予定通り派遣され、日本への研修員の派遣も予定通りとなっている。また、機材供与については、1993年7月に1992年度機材の据え付けを終了しており、更に、訓練コースの実施及び教材の整備についても概ね順調に推移しており、全体として、日本の技術移転は順調に展開している。

(2) プロジェクトの運営管理－PDMの内容検討

R/Dは必ずしも明確ではなかった本プロジェクトの目標等について、本調査団が作成したPDM(Project Design Matrix)により日本人専門家と協議し、共通の認識を持つこととした。また、このPDMそのものについては先方機関には示さず、論理的な枠組みについて説明した上で目標、成果、活動、投入及び外部条件について協議し、共通の認識が得られたものについてミニッツに記載した。

(3) 技術協力実施上の問題点－日本側要請事項

技術移転を実施していく上で、従来、CETEの活動を支える予算的な裏付けが不十分であること、民間機関と比べて給与等の条件が劣るため技術移転を受けた者が転職する等の問題があったため、日本側としてはメキシコ側が取るべき措置として、①CETEの独自予算の確

保一増額、安定した雇用形態、給与の遅配防止。②CETE職員の労働条件の改善—技術オペレーターの給与の増額、技術オペレーターの増員、カウンターパートの給与の見直しシステムの確立。③機材のメンテナンスのための予算の準備。の3点の改善を要望した。

これに対し、プロジェクトの運営の最高責任者である文部省官房長からそれぞれ予算の増額、増員等について現在の状況、今後の対処について既に措置をしたもの、現在関係機関に要望中のもの、現在検討中のものについて説明があった。今後とも引き続き注視していく必要がある（この内容の主要部分についてはミニッツに記載し、詳細は合同委員会議事録としてミニッツの附属資料として添付した）。

(4) 本プロジェクト関連事項の措置—メキシコ側要望事項

今回の一連の協議において、メキシコ側から本プロジェクトに関連して以下のとおり幾つかの要望事項があった。これについては合同委員会議事録として取りまとめミニッツの附属資料として添付したほか、現在の技術協力に関係する重要な事項（以下の①及び②）についてはミニッツに「その他」として記載することで整理した。

- ① CETE研修生から受講料を徴収することについては、プロジェクトの活動を補完することになることから、公的な研修センターとしての機能をもつこと、かつ、日本の技術協力が予定通り実施されることを条件に基本的に了解した。
- ② 日本の供与機材を利用してCETEが独自に特別訓練コースを実施することについては、CETEの自律的継続的な発展に資することから、あくまで日本の技術協力による10コースを優先し、かつ、日本の技術協力が予定通り実施されること、更にコースの実施に当たって日本人専門家と協議を行うことを条件に同意した。
- ③ カウンターパートが技術協力のコース以外の他のコースを実施することについては、上記②と同様の条件で同意した。
- ④ 追加機材の供与要望については、メキシコ側にも応分の負担を求めたが先方の強い要望もあり、要望機材の優先順位及びその必要性を提出させることとし日本に持ち戻り検討することとした。
- ⑤ 技術協力期間中における第3国研修の要望及び多国間協力の可能性についても、調査団の権限外のことであることから一般的事例を説明するにとどめた。

なお、今次調査団対処方針と協議結果は表-1のとおり。

2-2 ミニッツ

- (1) ミニッツは、英文・西文両方署名した。英文を正本とし、文意の解釈上、双方のミニッツに誤解を生ずるときは、英文に従うものとする旨西文ミニッツに記載した。
- (2) 署名者については、R/D及び1992年の巡回指導調査の例によることとして提案したところ、先方から署名者はUTE局長ではなく文部省官房長とし、Honor WitnessとしてUTE局長及びCETE所長としたい旨提案があった。調査団としては、今後の本プロジェクトの展開にあたってプロジェクトの最高の責任者が署名者となることはむしろ好ましいものと判断し先方提案どおりとして署名した。
- (3) 技術移転状況を把握するための尺度

数量的評価方法（案）

各コースごとに、クラスでの指導の面と教材準備（作成）の面に分けて評価する。

- 5点、事前に、専門家の指導がなく、かつ専門家の立ち会いなしでも独力で実施できる
- 4点、事前に、専門家の包括的な指導があれば、専門家の立ち会いなしでも独力で実施できる
- 3点、事前に、専門家の指導を受け、節目ごとに専門家が立ち会えば実施できる
- 2点、事前に、専門家の細部にわたる指導を受け、大部分の期間にわたり専門家の立ち会いを受ければ実施できる
- 1点、専門家の手取り足取りの指導を受けて、はじめて実施できる
- 0点、現段階では、専門家がいくら指導しても、そして完全に立ち会っても実施不可能である

表一 1 メキシコ教育テレビ研修センター巡回指導調査団対処方針と協議結果

平成5年8月25日
JICA社会開発協力第2課

調査・協議事項	現状及び問題点	対処方針	調査結果
<p>1. LPCM (プロジェクト) の説明とPDM (プロジェクト) の内容検討</p>	<p>1. LPCM の説明: プロジェクトの計画・実施及び評価の一連の課程を運営管理するためにJICAのプロジェクトに共通して導入している手法である。また、進行中のプロジェクトについては、PDMのみを作成し、終了時評価活用はPDMにもとづいて行うことになる。</p>	<p>1. PDMの内容検討: 今回は、本調査団が作成したPDMにもとづき、R/Dの記載では必ずしも明確ではなかった以下の事項について日本人専門家と協議し、共通認識をもつ。先方機関への説明にはPDMを用いずに概念的に行う。</p>	<p>1. 下記上位目標について、最終的な合意が得られず、今後検討を続けることとしたが、その他の部分については調査団と専門家の間で共通認識を持つことができた。 先方への説明には目的分析用のツリーを使い、概略を説明した。(表2-2)</p>
<p>1. プロジェクトの目標、上位目標</p>	<p>1. 「プロジェクトの目標」について、R/D上の記載は以下のとおり (Annex I, Master Plan 1. Objective of the Project より抜粋) The objective of the Project is to provide the theoretical and practical training to the Mexican technical and production staff of UTE and other Mexican television organizations and thus to contribute to the development of educational television production and broadcasting in the United Mexican States. (プロジェクトの目的は、UTE及びその他のメキシコの番組制作機関の技術者及び制作のスタッフに対する理論的かつ実質的な訓練を提供し、もって同国の教育番組の制作及び放送の発展に資する。)</p>	<p>1. 本調査団の検討案は以下のとおり。 (最終目標) テレビ放送が進展する (上位目標) 質の高い教育番組を制作する (プロジェクトの目標) CETEが教育番組制作にたづさわられる技術者を養成する</p>	<p>1. 専門家チームとの協議結果は以下のとおり。 (最終目標) 記載しないこととした。 (上位目標) メキシコの公共教育に対するテレビ番組導入の効果が増大する (プロジェクトの目標) CETEが教育番組制作にたづさわられる番組制作者および技術者を養成する</p>
<p>2. プロジェクトの活動と成果及びプロジェクトの活動に必要な投入</p>	<p>2. プロジェクトの活動: 10項目の新設訓練コースを行う プロジェクトの成果: 必ずしも明確に定まらされていない プロジェクトの投入: 日本人専門家派遣、機材供与、研修員受入れ、現地業務費、メキシコ側(土地・建物の整備、加クターの配置、加クター負担)</p>	<p>2. 協議団作成 PDM案に基づき検討する</p>	<p>2. 先方との協議の結果、主な変更点は以下のとおり。 (プロジェクトの成果) 活動の実施部署およびその活動内容を明確にした。 (1) 加クター: 訓練コースを実施する。 (2) 学術部: 訓練コースの運営管理を行う。 (3) 技術部: 施設、設備及び技術スタッフを手配する。 (4) 管理部: 訓練コース実施に必要なサービスを提供する。 (プロジェクトの活動) 詳細はPDM参照。 (プロジェクトの投入) 特になし。</p>
<p>3. プロジェクトにおける日本の技術協力の位置付け</p>	<p>3. R/Dの記載は、「教育番組制作にたづさわられるメキシコ人の技術者及び制作要員を訓練する目的でプロジェクトに専属的に雇われたUTEの加クターに対し、技術的助言を提供する。」こととなっている。</p>	<p>3. 本プロジェクトの目標達成のための当事者は、CETE及びそれを支援するUTEであることを再確認する。従って、日本の技術協力はプロジェクトの活動により得られる成果の一部を達成するものであり、一方メキシコ側がその他のプロジェクトの活動により得られる成果を同じく達成することによりプロジェクトの目標は達成できることを認識させる。</p>	<p>3. 先方は理解を示した。</p>

調査・協議事項	現状及び問題点	対処方針	調査結果
<p>4. 前提条件（プロジェクト開始の条件）及び外部条件（必要条件であるがプロジェクトではコントロールできない）の検討</p> <p>5. 客観的に立証可能な指標及び立証手段の検討</p> <p>エプロジェクトの進捗状況</p> <p>1. 投入計画と実績</p> <p>(1) 専門家派遣（日側）</p> <p>(2) 機材供与（日側）</p> <p>(3) 研修員受入れ（日側）</p> <p>(4) カンパポートの配置（日側）</p>	<p>4. 前提条件：メキシコ側負担によるスタジオ施設の建設（すでに完成している）</p> <p>外部条件：CETEの運営に必要な人員配置、予算手当、組織の整備</p> <p>5. 明確にする必要がある</p> <p>1. 日本側</p> <p>(1) 専門家派遣：CETEの円滑な運営に支障を来さないように長期専門家の帰任時期を変更することで同人及び派遣元より了解を取り付け済み。現在先方機関からの正式要請取り付け中。</p> <p>宮崎リーター 94年10月9日まで（1年延長）</p> <p>給山専門家 94年3月9日まで（5ヵ月延長）</p> <p>望月調整員 94年10月30日まで（1年延長）</p> <p>(2) 機材供与：</p> <p>a. 平成5年度供与機材の購送内容と時期</p> <p>供与予定金額 約30,000千円（内27,000千円日本邦購送）</p> <p>購送内容 ほぼ申請とおり購送見込み</p> <p>契約時期 外務省との機材実施協議が未承認であるが、承認次第、契約を結ぶ。</p> <p>購送時期 機井専門家の帰国前に据付け完了を要している</p> <p>b. 平成6年度供与要望機材</p> <p>カメラクレーン、スベアパーツを要望する</p> <p>(3) 研修員受入れ：日本側協力機関の支援により派遣実施されている。</p> <p>(4) カンパポートの配置：実施協議調査時に専門家1人につき2名配置する約束は、達成されている。ただし、日本研修後、配置替え及び転職により、研修成果を直接発揮できなかった場合がある。</p> <p>カンパポートの増員：専門家1人に対しカンパポート2名では、訓練コース実施に際し支障を来している。特に制作技術分野（4コース実施）に問題がある。</p>	<p>4. PDM案に基づき検討する。 論議作成</p> <p>調査困り作成</p> <p>5. PDM案に基づき検討する 今次調査にて具体化する</p> <p>(1) 先方機関の意向を再度確認する</p> <p>(2) 購送にかかる日数を短縮するために据付け専門家による同時併行で対応する</p> <p>b. 要望機材の詳細を確認し検討する</p> <p>(3) 特になし</p> <p>(4) 「日本研修終了後、最低3年（1年またはそれ以上）はプロジェクトに継続的に従事する」とを先方に強く要望し、ミニッツに残す。</p> <p>専門家1人につき2名のカンパポートを配置することとは当初技術移転を実施する際の専門家の負担を考慮した人数であり、必ずしも訓練コース実施者すべてがカンパポートであるという想定にはなっていないはずである。</p> <p>対応方針として、専門家が対応可能であれば、カンパポートの増員を要望する。さもなくば、カンパポートがその地（メキシコ）に技術の普及指導（再移転）を行う体制を作るよう助言する。R/Dには明文化されていない内容なので双方合意が得られれば、ミニッツに記載する。</p>	<p>4. 主要な変更点は以下のとおり。 (前提条件)</p> <p>すでにスタジオは完成し、プロジェクトを開始しているもので、記載しないこととした。 (外部条件)</p> <p>プロジェクトの実施責任者である文部省首席長は、CETEの運営に必要な人員配置、予算手当、組織の整備について、対応措置をとるべきであると判断し、外部条件を整理した。</p> <p>5. 専門家との協議結果は PDM 参照。</p> <p>1. (1) 先方からの正式要請書本邦接到済み。現在当方にて延長手続中。</p> <p>(2) a. 同左</p> <p>b. 要望機材の詳細リストは、 別添調達の別添資料参照。</p> <p>(3) 本年度計画分残る1名について、日本派遣時期は今秋以降で調整することにした。</p> <p>(4) 「日本研修終了後、最低1年はプロジェクトに継続的に従事するためにメキシコ側が必要な手段を講じる」ことを約束し、ミニッツに明記した。</p> <p>また、カンパポートの増員は予算面での制約により困難であるとの回答を得た。しかし、カンパポート及び技術オペレーターの増員について対応措置を検討することとし、ミニッツに記載した。</p>

調査・協議事項	現状及び問題点	対処方針	調査結果
<p>(4) 続き</p> <p>(5) E-加工負担(メ側) II. プロジェクトの活動 (1) 技術移転状況(日・メ) a. 教材整備 b. 機材の操作・管理 c. カリキュラムの整備・訓練計画の作成 d. 教材指導能力の向上 (2) 訓練コースの運営管理(メ側) a. 訓練コースの年度計画の策定・調整 b. 訓練対象者の需要調査・募集 c. 専門家、イストラクター及び訓練コース受講者による実施後の評価の取りまとめ (3) 施設、機材の保守管理(メ側) a. 施設・機材管理台帳作成状況 b. 施設・機材の利用時期及び利用数量割り当て状況 III. プロジェクトの実施環境と実施体制(前提条件、外部条件) (1) 文部省の機構改革</p>	<p>(4) 準カンパード的立場のスタッフの雇用の不安定性：R/Dに明確に記載され無く、特にオペレーターに技術移転をしても、辞めてしまう。</p> <p>(5) E-加工負担(メ側)：CETE運営費(人件費、管理費、業務活動費等)</p> <p>(1) 技術移転状況詳細を現地照会中</p> <p>(2) 訓練コースの運営管理 a. 訓練コースは92年10月開講し、現在コース実施計画に基づき運営されている。 b. 92年 月に先方機関による訓練対象者の需要調査が実施されている c. 評価体制について現地照会中</p> <p>(3) 施設、機材の保守管理詳細を現地照会中</p> <p>(1) 文部省内の機構改革について、本年7月には決定される見込みであったが、現時点でまだ検討中である。この改革により、CETEの文部省内での位置付け、CETEの運営形態が変更される見込みであることを、非公式に専門家より報告を受けている。</p>	<p>(4) カンパード同様技術移転の対象者であることと認識させ、雇止め防止のために、雇用条件の改善策(特に給与面)をとるよう要望する。状況に応じミニッツに記載する。</p> <p>(5) CETEの予算執行状況を調査する。予算執行が遅れないよう念を押す。</p> <p>2. (1) 終了時評価に向けての活動実績の整理を行う</p> <p>(2) 訓練コースの質を継続的に向上させるために、専門家、イストラクター及び訓練コース受講者による、訓練コース実施後の評価のための手法の策定を行うよう要望する。</p> <p>(3) 特に機材管理の責任者を明確にする</p> <p>(1) CETEの運営に一部独立採算性が導入される見込みがあつたとの報告を受けている。収入確保のため、営業行為として、訓練コースの受講料徴収、番組の委託制作及び実機材の貸与等が考えられるが、技術協力期間中は、専門家の技術移転に支障がない範囲で、プロジェクトの活動を縮減することができ、またCETEの自律的継続的発展につながる活動であれば、特に問題はないと助言する。</p> <p>ただし、機材の貸与については、万が一貸与中に故障した場合の補償問題、及び修理に時間を要することが考えられるところ、避けたほうがいいと助言する。</p> <p>個々の営業行為の是非の判断は、CETE所長とチーフアドバイザーである専門家との合意に行われるものとする。</p>	<p>(4) 雇止め防止策 I. 専門家及びカンパードから技術指導を受けた技術ハレクターは、技術指導を受けてから最低1年間は離職しないために必要な手段を講じる」ことがミニッツに記載された。</p> <p>技術ハレクターの雇用条件の改善 給与を1,000ペソから2,000ペソ(1ヵ月)に増額することについての承認待ちとの由。</p> <p>(5) 官房長より、予算増額の報告があつた。 a. 人件費：692.4 から1409.1 (千新ペソ) へ b. 施設、機材の保守費用：新たに、450.0 (千新ペソ) 確保</p> <p>2. (1) 詳細はカンパード育成状況評価表(別添)を参照。 なお、今後PDDMの導入により、技術移転の進捗状況を双方が、共通の尺度で把握できることが必要となるため、専門家チームに適切な尺度を検討してもらつた結果を巻2-4-1に付す。</p> <p>(2) 学術部の調査・評価課訓練生に対する受講後のアンケートは、すでに実施されている。</p> <p>(3) 技術部の技術・保守課が施設、機材の保守管理を行う。</p> <p>IV. Y. (1) 受講料の徴収について、以下の条件の下で了解し、ミニッツに記載した。 a. CETEが公的訓練センターとして機能する。 b. 日本の技術協力が計画通り実施される。</p>

別添: 調査報告書 資料 1-1~1-2

上位目標

教育テレビ研修センター
巡回指導調査団
目的分析

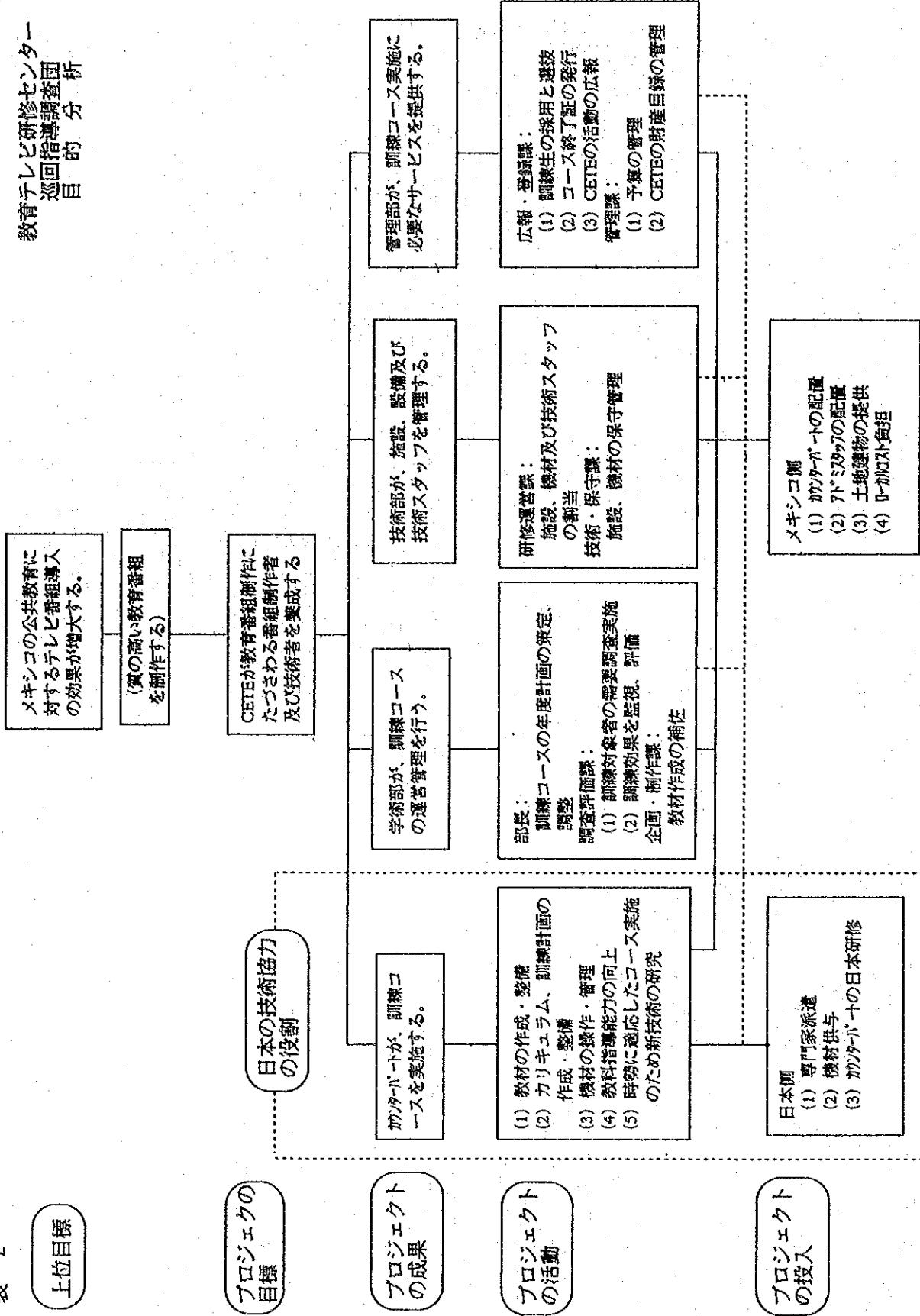


表-3 プロジェクト・デザイン・マトリクス (PDM)

プロジェクトの要約：メキシコ教育テレビ研修センター

巡回指導調査団帰国報告会資料
平成5年8月25日

目的/活動の要約	客観的に立証可能な指標	立証手段	重要な外部条件																																																										
<p>上位目標 (Goal) メキシコの公共教育に対するテレビ番組導入の効果が増大する。 (質の高い教育番組を制作する)</p> <p>プロジェクトの目標 (Project Purpose) CETEが教育番組制作にたづなわれる番組制作者及び技術者を養成する</p>	<p>1) テレビ中学校向け番組に対する教育現場の評価 2) メキシコの放送局 (主として各州当局) での教育番組制作本数、放送時間数の増加 CETEのコース終了者数がR/Dの目標数値に達する</p>	<p>1) テレビ中学校関係者への聞き取り調査 2) 各局の番組表 (教育番組の時間数の推移)</p>	<p>メキシコ政府の文教当局は、教育向上を重点施策とする方針を変更しない。 訓練を受けた番組制作者及び技術者が教育放送機関に引き続き就労する。</p>																																																										
<p>プロジェクトの成果 (Results, Outputs) 1) カンパニーが、訓練コースを実施する。 2) 学術部が、訓練コースの運営管理を行う。 3) 技術部が、施設、設備及び技術スタッフを管理する。 4) 管理部が、訓練コース実施に必要なサービスを提供する。</p>	<p>1) カンパニーが、独自で訓練コースを実施する 2) 訓練コース実施計画と実績 3) 施設、機材及び技術スタッフの管理状況</p>	<p>1) 四半期報告書 2) 教材整備状況 3) 技術移転状況 2) 訓練コース実施計画・実績表 3) 各年度の機材管理台帳、在庫リスト、資材点検実施状況レポート</p>	<p>訓練生が速時、適正確保される。</p>																																																										
<p>プロジェクトの活動 (Activities) 1) カンパニーのマネジメントは、日本の技術協力により、以下の活動を行う (1) 教材の作成・整備 (2) カリキュラム、訓練計画の作成・整備 (3) 機材の操作・管理 (4) 教科指導能力の向上 (5) 時刻に適合したコース実施のため新技術の研究 2) 学術部は、以下の活動を行う。(専門家は助言可) (1) 部長：訓練コースの年度計画の策定、調整 (2) 調査評価課：訓練対象者の需要調査実施 (3) 調査評価課：訓練効果を監視、評価 (4) 企画、制作課：教材作成の補佐 3) 技術部は、以下の活動を行う。(専門家は助言可) (1) 研修運営課：施設、機材及び技術スタッフの管理 (2) 技術・保守課：施設、機材の保守管理 4) 管理部は、以下の活動を行う。(専門家は助言可) (1) 広報・登録課：訓練生の採用と選抜 (2) 広報・登録課：コース終了証の発行 (3) 広報・登録課：CETEの活動の広報 (4) 管理課：予算の管理 (5) 管理課：CETEの財産目録の管理</p>	<p>投入 (Input)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">計画</th> <th colspan="4">実績</th> </tr> <tr> <th>1991</th> <th>1992</th> <th>1993</th> <th>1994</th> <th>1995</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日期 (4月~3月)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1. 専門家派遣 (数)</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 機材供与 (百万円)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 研修員受入れ (数)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>メ期 (1~12月)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1. カンパニー配属 (数)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 委託先 ()</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 施設・機材費 ()</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	計画	実績				1991	1992	1993	1994	1995	日期 (4月~3月)						1. 専門家派遣 (数)	5					2. 機材供与 (百万円)						3. 研修員受入れ (数)						メ期 (1~12月)						1. カンパニー配属 (数)						2. 委託先 ()						3. 施設・機材費 ()						<p>1) 放送分野における政府関係機関と民間企業との就労者の給与格差が今以上に広がらない 2) 文部省内の機構改革がプロジェクトの活動に支障を来さない</p>	
計画	実績																																																												
	1991	1992	1993	1994	1995																																																								
日期 (4月~3月)																																																													
1. 専門家派遣 (数)	5																																																												
2. 機材供与 (百万円)																																																													
3. 研修員受入れ (数)																																																													
メ期 (1~12月)																																																													
1. カンパニー配属 (数)																																																													
2. 委託先 ()																																																													
3. 施設・機材費 ()																																																													

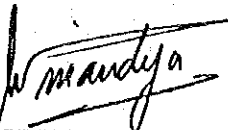
(1) 英文ミニッツ

THE MINUTES OF MEETING
BETWEEN THE JAPANESE ADVISORY SURVEY TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE UNITED MEXICAN STATES
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE EDUCATIONAL TELEVISION TRAINING CENTER

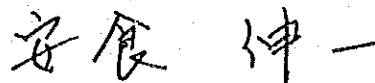
The Japanese Advisory Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA), headed by Mr. Shinichi Ajiki visited the United Mexican States from July 26th, 1993 to August 6th, 1993 for smooth and successful implementation of the Technical Cooperation concerning the Educational Television Training Center Project (hereinafter referred to as "the Project"). During its stay in the United Mexican States, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Mexican authorities concerned in respect of the implementation and progress of the Technical Cooperation Programs for the Project.

As a result of the survey and discussions, both sides made the Minutes of Meeting attached hereto .

Mexico City, August 4th, 1993

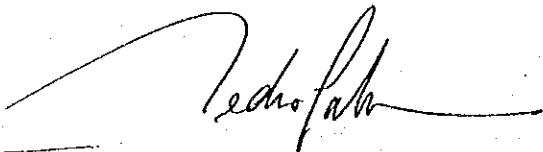


Lic. GERMAN FERNANDEZ AGUIRRE
Oficial Mayor de la Secretaria
de Educacion Publica (SEP)
THE UNITED MEXICAN STATES




Mr. SHINICHI AJIKI
Leader
Japan Advisory Survey Team
Japan International Cooperation
Agency (JICA), JAPAN

Honor Witnesses



Ing. PEDRO SABAU GARCIA
Director General
Unidad de Television Educativa (UTE)
THE UNITED MEXICAN STATES



Lic. MARIA GUADARUPE GALVAN S.
Directora del C.E.T.E.
Unidad de Television Educativa
THE UNITED MEXICAN STATES

THE ATTACHED DOCUMENT

1. Logical Framework of the Project

Both the Team and the Mexican side agreed that the Project had been making steady progress.

To pave the way toward the attainment of the Project purpose, both the Team and the Mexican side discussed and worked out the following logical steps to realize the "Objective of the Project" which was stipulated in the Record of Discussions (hereinafter referred to as "the R/D") signed on March 18th, 1991.

1.1. Project Purpose

CETE becomes capable of training Mexican technical and production staff of UTE as well as those of other T.V. staff in Mexico.

To attain this Project Purpose, the Project requires the following outputs.

1.2. Project Outputs

1.2.1. CETE instructors become capable of implementing training courses,

1.2.2. Academic area becomes capable of managing the schedules of the training courses,

1.2.3. Technical area becomes capable of arranging facilities, equipment and technical staff.

1.2.4. Administrative area becomes capable of managing the services of training courses.

To produce these outputs, the Project undertakes the following activities.

1.3. Project Activities

1.3.1. For implementing training courses, by counterpart personnel

1.3.1.1. To develop teaching materials

1.3.1.2. To improve curriculum and lesson plans

1.3.1.3 To master the technique of operation and regular inspection of equipment.

1.3.1.4. To obtain knowledge and skill for improving teaching method

1.3.1.5. To research new technology to bring the courses up to date.

1.3.2. For managing training courses,

1.3.2.1. To formulate annual plans and coordinate course arrangement by sub-director of academic area.

1.3.2.2. To make trainees-demand survey for training by the

Dr. M. S.

- research and evaluation department.
- 1.3.2.3. To monitor and evaluate training effects by the research and evaluation department.
 - 1.3.2.4. To assist counterpart personnel to produce teaching materials by the designing and production department.
- 1.3.3. For arranging facilities, equipment and technical staff.
 - 1.3.3.1. To allocate facilities, equipment and technical staff for the training courses by the training operation department.
 - 1.3.3.2. To maintain facilities and equipment by engineering and maintenance department.
 - 1.3.4. For managing the services of training courses.
 - 1.3.4.1. To manage enrollments (Recruit and selection of trainees) by the promotion and enrollment department.
 - 1.3.4.2. To issue certificates of the training courses by the promotion and enrollment department.
 - 1.3.4.3. To promote activities of CETE to the public by the promotion and enrollment department.
 - 1.3.4.4. To control budget by the administrative department.
 - 1.3.4.5. To check CETE inventory by the administrative department.

To conduct these various activities, the following inputs are required by both the Japanese and Mexican sides.

1.4 Inputs

1.4.1. Japanese side

- 1.4.1.1. Dispatch of Experts
- 1.4.1.2. Provision of Machinery and Equipment
- 1.4.1.3. Training of Mexican counterpart personnel in Japan

1.4.2. Mexican side

- 1.4.2.1. Assignment of counterpart and administrative personnel
- 1.4.2.2. Provision of land, building and facilities
- 1.4.2.3. Running expenses necessary for the implementation of the Project

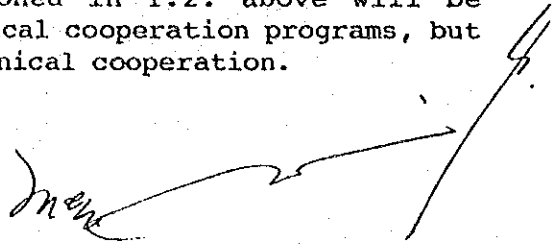
2. Role Demarcation between Japanese and Mexican sides

Both sides mutually understand the role demarcation between Japanese and Mexican sides to produce the Outputs described in I effectively and efficiently.

2.1 Japanese side

Japanese side will aim at concentrating on technical transfer to CETE instructors to enable them to implement training courses.

The other three outputs mentioned in 1.2. above will be partially along with Japanese technical cooperation programs, but not within the focused scope of technical cooperation.



2.2 Mexican side

Mexican side will be responsible for undertaking all the Project activities, especially in aiming at building up the CETE as a whole to manage training courses, facilities and equipment.

It will also be responsible for sustaining the CETE even after the technical cooperation term to pursue its way toward higher development goal such as for that;

2.2.1 Mexican technical and production staff of UTE as well as those of T.V. production in Mexico become more capable of producing more qualified T.V. programs.

3. Uncontrollables by the Project

Both the Team and Mexican sides reconfirmed to take possible measures necessary for undertaking the Project activities.

At the same time, they recognized the importance to observe following certain uncontrollables so that they might not exert bad influence on the Project.

3.1. Reformation of Ministry of Education and personnel changes of the coming Presidential election

3.2. Income disparity between workers for the government and the private in the field of broadcasting

4. Monitoring the progress of the Project

Both sides understand that logical framework of the Project indicates that the Project Purpose would be attained if the Project produce expected outputs.

Further, expected outputs will become realized if scheduled Project activities are carried out.

Inputs by both the Japanese and Mexican sides will be indispensable for carrying out the Project activities.

These logical steps imply the procedures for monitoring the progress of the Project.

4.1 Inputs by both sides

Comparison between the Tentative Schedule of Implementation and the Actual Implementation (hereinafter referred to as "the T.S.I.") is shown in Annex I.

4.2. Project Activities

Comparison between the T.S.I. and the Actual Implementation is shown in Annex II.

4.3. Project Outputs

Comparison between the T.S.I. of training courses and the Actual implementation of training courses is shown in Annex III.

5. IMPLEMENTATION SCHEDULE OF THE PROJECT

5.1. Inputs by both sides

See the T.S.I. in Annex. I.

5.2. Project Activities

See the T.S.I. in Annex. II.

6. MATTERS TO BE SOLVED

Although both sides agreed to have mostly fulfilled the matters in accordance with the R/D, the Team and the Mexican side realized that there were still following matters to be solved for successful implementation of the Project.

6.1. By Japanese side

To provide machinery and equipment for the fiscal year 1993 as soon as possible.

6.2. By Mexican side

6.2.1. To take necessary measures to keep counterpart personnel in their position at least one (1) year after the technical training in Japan.

6.2.2. To take necessary measures to keep technical operators in their position at least one (1) year after receiving the technical training from the experts and counterpart personnel.

6.2.3. To increase the number of assistant counterpart personnel and technical operators for the implementation of training courses.

6.2.4. To increase the salary of counterpart and administrative personnel according to the changes in the cost of living.

6.2.5. To allocate CETE budget sufficiently and timely in order to implement the Project.

7. OTHER ISSUES

7.1. Collection of course fee

The Team basically understands CETE to collect course fee from trainees on condition that;

7.1.1. CETE functions as the public training center,

7.1.2. Japanese Technical Cooperation is implemented as scheduled.

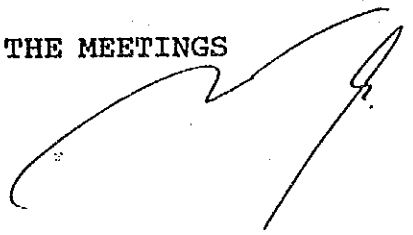
7.2. Special training courses held by CETE independently, using facilities and equipment

The team appreciates the special training courses as listed in Annex IV. provided that Japanese Technical Cooperation is

implemented as scheduled.

- ANNEX I. INPUTS BY BOTH SIDES
- ANNEX II. ACTIVITIES BY BOTH SIDES
- ANNEX III. OUTPUTS BY BOTH SIDES
- ANNEX IV. SPECIAL TRAINING COURSES HELD BY CETE
- ANNEX V. THE ORGANIZATION CHART OF CETE
- ANNEX VI. THE SUMMARY OF REQUESTS AND RESPONSES IN THE
JOINT COMMITTEE MEETING
- ANNEX VII. THE LIST OF PARTICIPANTS IN THE MEETINGS

2



mem

ANNEX I. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

I T E M S	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
JAPANESE SIDE 1. DISPATCH OF LONG-TERM EXPERTS (T.S.I.)																
(1) Chief Advisor			10													
(2) Coordinator			10													
(3) Experts in the fields of:																
a) Program Production			10													
b) Production Engineering																
c) Production Engineering (Facility)	4		10													
(ACTUAL)																
(1) Chief Advisor			10													
(2) Coordinator			10													
(3) Experts in the fields of:																
a) Program Production			10													
b) Production Engineering																
c) Production Engineering (Facility)	4		10													

me

ANNEX I. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

I T E M S	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
JAPANESE SIDE 2. DISPATCH OF SHORT-TERM EXPERTS (T.S.I.)																
As necessary. IN 1993, EXPERTS ON: (1) TV post-production engineering (2) Installation of TV equipments engineering (3) TV filming engineering (4) TV video engineering			10													
(ACTUAL)																
EXPERTS ON: (1) Architect of T. V. studio (2) Installation (Light) (3) Installation (T. V. studio and Post Production Equipment) (4) Research on Educational Broadcasting (5) T. V. studio Scenery (6) Maintenance of video equipment (7) Audio engineering (8) T. V. puppets program production	5															
					5	8	(2 persons)									
					6	8	(8 persons)									
					7	8										
					10	12										
					12	23										
					7	8										

ANNEX I. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

I T E M S	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
MEXICAN SIDE																
1.SERVICES OF MEXICAN PERSONNEL (T.S.I.)																
(1)Director General of UTE	4															
(2)Director of CETE																
(3)Counterpart personnel:																
a)Program Production			10													
b)Production Engineering																
c)Production Engineering(Facility)			10													
(4)Administrative personnel			10													
(ACTUAL)																
(1)Director General of UTE	4															
(2)Director of CETE							9									
(3)Counterpart personnel:																
a)Program Production			9													
b)Production Engineering			9													
c)Production Engineering(Facility)			10													
(4)Administrative personnel																
a)Administration							10									
b)Accounting							10									
c)Secretary																
e)Clerical worker																
f)Drivers																
g)Others																

Handwritten signature

\$

ANNEX I. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

ITEMS	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
MEXICAN SIDE LAND, BUILDINGS AND FACILITIES FOR THE PROJECT (T.S.I.)																
(ACTUAL) (1) Utilization of land, buildings and facilities (2) Utilization of studio																

11

Insp

ANNEX II. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

I T E M S	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
ACTIVITIES FOR																
1. Implementation of training courses																
(T.S.I.)																
1. Teaching materials	To produce															
2. Curriculum and lesson plans	To elaborate															
3. The technique of operation and regular inspection of equipment																
4. Knowledge and skill for improving teaching method																
5. Researching new technology																
(ACTUAL)																
1. Teaching materials	To produce															
2. Curriculum and lesson plans	To elaborate															
3. The technique of operation and regular inspection of equipment																
4. Knowledge and skill for improving teaching method																
5. Researching new technology																

mdp

ANNEX II. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

ITEMS	1991	1992	1993	1994	1995
ACTIVITIES FOR					
2. Management of the schedules of the training courses	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T.S.I.)					
1. Annual plans and course arrangement					
2. Trainees-demand survey			45		
3. Monitor and evaluation of training courses		11			
4. Assistance of counterpart personnel to produce teaching materials					
(ACTUAL)					
1. Annual plans and course arrangement					
2. Trainees-dem and survey			45		
3. Monitor and evaluation of training courses		11			
4. Assistance of counterpart personnel to produce teaching materials					

Handwritten signature

ANNEX II. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

ITEMS	1991	1992	1993	1994	1995
ACTIVITIES FOR:					
3. Arranging facilities, equipment and technical staff	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T.S.I.)					
1. Allocation of facilities, equipment and technical staff for the training courses.	4				
2. Maintaining facilities and equipment	11				
(ACTUAL)					
1. Allocation of facilities, equipment and technical staff for the training courses.	4				
2. Maintaining facilities and equipment	3				

St

ANNEX II. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

ITEMS	1991	1992	1993	1994	1995
ACTIVITIES					
4. Managing the services of training courses	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T.S.I.)					
1. To manage enrollments	1				
2. To issue certificates of the training courses	2				
3. To promote activities of CETE to the public	1				
4. To control budget	4				
5. To check CETE inventory	11				
(ACTUAL)					
1. To manage enrollments		7			
2. To issue certificates of the training courses		8			
3. To promote activities of CETE to the public		1			
4. To control budget assigned by UTE			6		
5. To check CETE inventory	3				

Handwritten signature

ANNEX III. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

ITEMS	1991	1992	1993	1994	1995
PROJECT OUTPUTS IMPLEMENTATION OF TRAINING COURSES	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T.S.I.) (1) T.V. camera (2) Lighting (3) Video and VTR engineering (4) Audio engineering (5) Post-production (6) Maintenance of equipment (7) Program production (Basic) (8) Program production (Advanced)		4 8 2 1 5 2 1 2 4 6 10 2 6 8 2 2 4 8 1 1 6 10 2 2	(TO REPEAT)	(TO REPEAT)	(TO REPEAT)
(ACTUAL) (1) T.V. camera (2) Lighting (3) Video and VTR engineering (4) Audio engineering (5) Post-production (6) Maintenance of equipment (7) Program production (Basic) (8) Program production (Advanced)		2 11 2 11 3 11 5 11 1 1 2	4 4 5 4 5		

5

ANNEX III. COMPARISON BETWEEN THE T.S.I. AND THE ACTUAL IMPLEMENTATION

(TERM OF TECHNICAL COOPERATION 1991.4.1.- 1996 3.31)

ITEMS	1991	1992	1993	1994	1995
PROJECT OUTPUTS IMPLEMENTATION OF TRAINING COURSES	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T.S.I.)					
(9) Special courses		7.8			
1. Evaluation of TV educational program					
2. Studio scenery		11.12			
3. Maintenance of VTR engineering		2.3			
4. Audio engineering		12			
5. TV puppets program production			7.8		
6. TV post- production engineering			2.10		
7. TV filming engineering			10.12		
8. TV video engineering			12		
(10) Practical training of program production		3			
(ACTUAL)					
(9) Special courses		7.8			
1. Evaluation of TV educational program					
2. Studio scenery		11.12			
3. Maintenance of VTR engineering		12			
4. Audio engineering		2.3			
5. TV puppets program production			7.8		
(10) Practical training of program production		3			

Inter

A N E X IV

SPECIAL TRAINING COURSES HELD BY C.E.T.E.

INSTRUCTORS TRAINING

STUDIO SCENARY

SCRIPT OF T.V. PROGRAMS

CAMARA DIRECTION

MANAGEMENT OF BROADCASTING STATIONS

MAKE UP

CONDUCTING AND ANNOUNCERS WORKSHOP

VIDEO HOME

DIDACTIC STRUCTURES FOR TELEVISION PROGRAMS

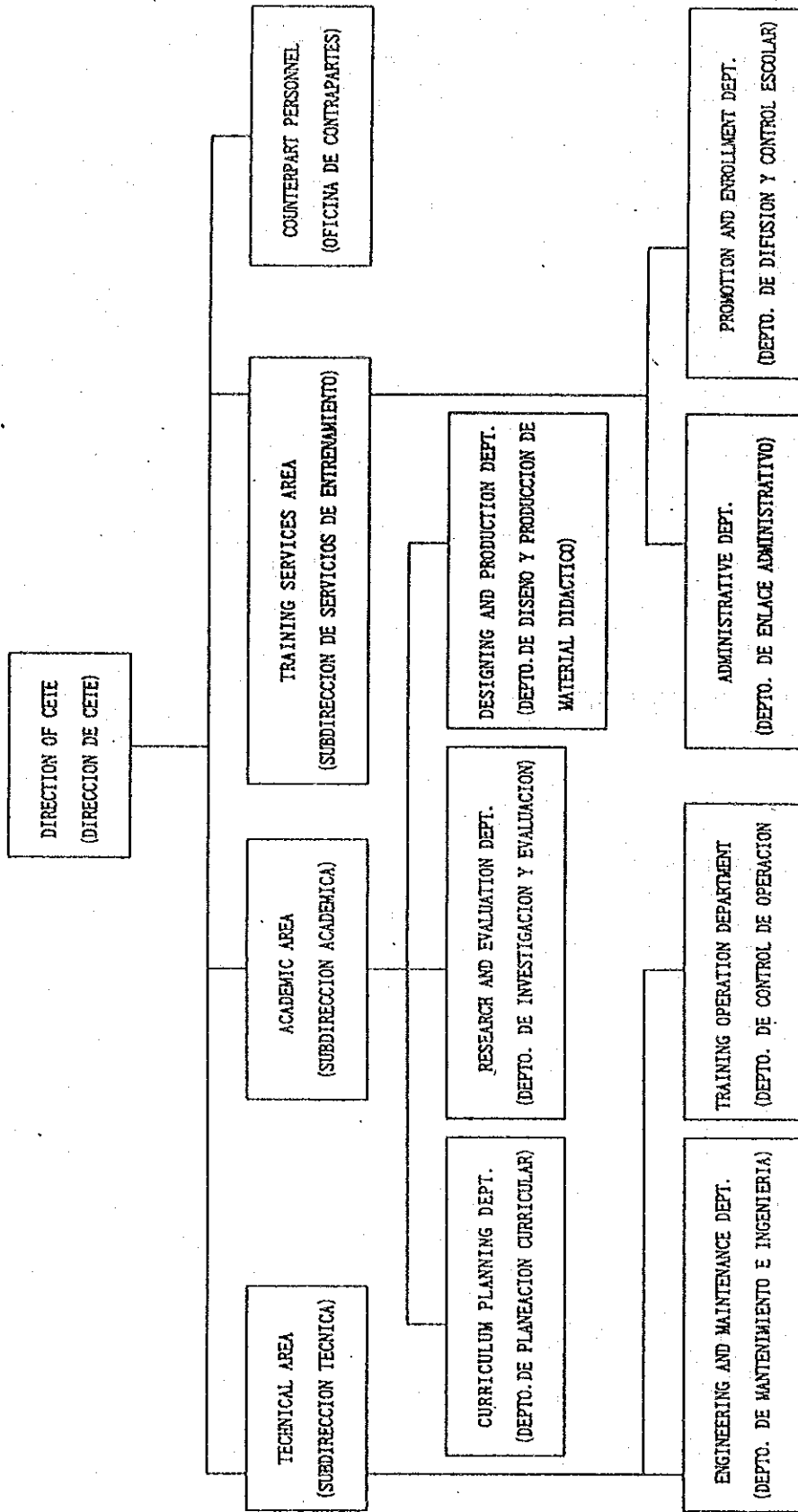
ADMINISTRATION OF T.V. TRANSMISSION

BETACAM

U-MATIC

T.V. LANGUAGE ANALYSIS

ANIMATION



Man

about Japanese requests

1 CETE's own budget

The requests were directed to these aspects.

a) to increase the budget with a complementary amount in relation to the assigned budget.

b) to have an employment system more stable.

c) to try not to delay the payment for the personnel.

a) Official Mayor replied that the budget has been revised and an increment has already been admitted.

Authorized budget for the personnel was increased from N\$694.2 (thousand new pesos) to N\$1,409.1 (thousand new pesos).

Moreover the budget for maintenance of equipments and facilities have been revised to obtain N\$450.0 (thousand new pesos).

b) To stabilize the personnel, we are waiting for the restructure of SEP very soon, then we will have long-term employment system originated by positions.

c) We share the concern about the delay in the payment and we will try to avoid the delay.

2 Improvement in the working conditions of the CETE personnel.

The requests were focused on the following aspects.

a) to increase the salary of the technical operators.

b) to increase the number of the technical operators.

c) to revise the income system of the counterpart personnel.

Official Mayor answered as follows;

a) Even though, the administrative procedures for gaining the additional budget, we have to wait for an authorization to increase the amount of N\$1,000.00 to N\$2,000.00 for the technical operators.

b) A research to increase the number of technical operators is going to be held. For example, to increase the number of 11 operators up to 15.

c) To establish a system for revising income of the counterpart

personnel,

this system has to be under the following terms:

- permanently and periodically
- aiming at their stay in the Project
- taking into consideration the wages of other areas in SEP
- trying to obtain the necessary authorization of Secretaria de Hacienda y Credito Publico.

3 Provision for the maintenance of the equipment

The Japanese side insisted on having the appropriate measures to prevent possible failures in the equipment after 1994.

Official Mayor answered that they have found necessities for N\$450.0(thousand new pesos) to be used as it is required and some provisions are going to be included in the 1994 budget.

Mexican side requests.

The Mexican side asked for the confirmation of the following.

1. Collection of course fee

In order to have additional resources, besides the allocated budget by SEP, the Mexican Government will always supply the necessary amount for the development of the courses.

The Japanese side basically understands CETE to collect course fee, provided that it does not affect the technical cooperation.

There will be also an scholarship system for the trainees.

The income generated by course fee will be applied to support the activities in CETE.

2. More intensive use of the facilities and equipment of CETE to develop some other courses.

The Japanese side is in agreement on the following conditions;

- a) 10 courses in the R/D have priority.
- b) The Japanese technical cooperation is implemented as scheduled.
- c) At the stage of making course planning, it is necessary to have meetings with chief advisor from JICA during the term of technical cooperation.

3. About the counterpart personnel,

It was mentioned that they were able to implement more training courses and some other courses than scheduled.

The Japanese side agree with that, but on the same condition as in No.2.

4. Perspective of CETE in the future .

As the Project is in the middle of its way and facing the rapid progress in the world related to the new technologies in the field of distance education (multimedia, video text, lectures, etc.), it is important to take into consideration the possibilities to have another project based on the following;

- a) to actualize the equipment of CETE
- b) to define upper purposes and goals for CETE

The Japanese side took notes about it.

5. Provision of additional machinery and equipments

The Mexican side understands that the budget for the Project has already expended and the 95% of the installation is done, remaining only equipment for post-production cab., the Mexican side insists on the necessity to have extra equipments which would be proposed to the Japanese side.

The Japanese side considers that the technical cooperation implies participation of both sides.

Even though, they will study the priority list and will see the possibility to realize this request.

6. Project of multi-lateral cooperation

The Mexican side considered the possibility of having trainees from Latin America and to extend the services offered by CETE.

The Japanese side explained that there are some projects of multi-lateral cooperation. They added that in order to have that kind of projects like Mexican suggested, it is necessary to have the appropriate discussions with the participation of countries involved.

ANNEX VII. THE LIST OF PARTICIPANTS IN THE MEETING

LIST OF JAPANESE PARTICIPANTS

EMBASSY

Mr. TOSHIYUKI YANAGISAWA Third Secretary of Embassy

JICA

Mr. HIROSHI SAITO General Director of JICA-MEXICO

Ms. HIROMI FUJISAWA Subdirector of JICA-MEXICO

ADVISORY SURVEY TEAM

Mr. SHINICHI AJIKI Deputy Director, International Cooperation Div.
International Affairs Department
Ministry's Secretariat

Mr. DAISUKE NISHIMURA Deputy Director, International Relations
NHK

Mr. FUJIO KOIKE Member, Facilities Administration Div.
Engineering Administration Department
NHK

Mr. KAZUYOSHI SHINOYAMA Staff, Second Technical Cooperation Div.
Social Development Cooperation Department
JICA

EXPERT OF CETE

Mr. KEI MIYAZAKI Chief Advisor

Mr. SHINICHI FUNAYAMA Expert on Program Production

Mr. TAKESHI IIDA Expert on Production Engineering

Mr. YASUKAZU YOKOI Expert on Production Engineering (Facility)

Ms. NAOKO MOCHIZUKI Expert on Coordination

Ms. YUKO YAGI Interpreter

THE MEXICAN TEAM

MR. LIC. GERMAN FERNANDEZ AGUIRRE

OFICIAL MAYOR OF THE MINISTRY OF
PUBLIC EDUCATION.
THE UNITED MEXICAN STATES.

MR. ING. PEDRO SABAU GARCIA

GENERAL DIRECTOR OF UNIDAD DE
TELEVISION EDUCATIVA.

MS. LIC. MARIA GUADALUPE GALVAN S.

DIRECTOR OF C.E.T.E.

MR. LIC. MARCO ANTONIO ESPINOSA DE
LOS MONTEROS.

SECRETARY OF THE INTERNAL COMMISSION
OF PUBLIC ADMINISTRATION.

MR. ING. ARTURO SANTAMARIA ALDANA

COUNTERPART OF PRODUCTION ENGINEERING
FACILITY.

MR. ING. CARLOS GARCIA QUIROZ.

COUNTERPART OF PRODUCTION ENGINEERING
FACILITY.

MS. LIC. LAURA E. PRIANTI CANTON

SUBDIRECTOR OF ACADEMIC AREA.
C.E.T.E.

MR. LIC. LUIS MIGUEL RIVERO

COUNTERPART OF PROGRAM PRODUCTION.

MR. C.P. ALFONSO ANGELES VENEGAS.

CHIEF OF ADMINISTRATIVE DEPARTMENT
C.E.T.E.

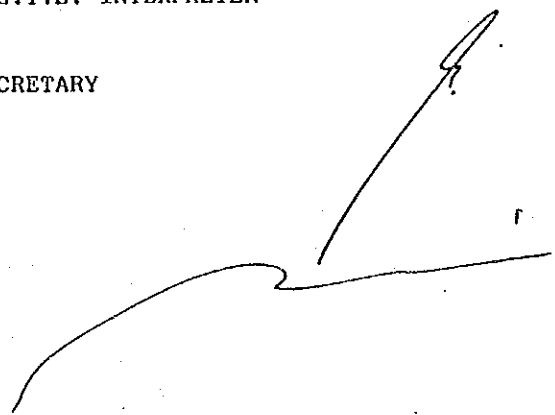
MR. PROFR. JORGE OJANGUREN ROMERO

C.E.T.E. INTERPRETER

SRTA. VERONICA URIBE SANCHEZ

SECRETARY

67



J. J. J.

(2) 西文ミニッツ

MINUTA DE LA REUNION
ENTRE LA MISION JAPONESA DE ASESORAMIENTO E INVESTIGACION
Y LAS AUTORIDADES DEL GOBIERNO DE LOS ESTADOS UNIDOS MEXICANOS
RELACIONADAS CON COOPERACION TECNICA JAPONESA
PARA EL CENTRO DE ENTRENAMIENTO DE TELEVISION EDUCATIVA

La Misión Japonesa de Asesoramiento e Investigación (en lo sucesivo denominada La Misión), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (J.I.C.A.), encabezada por el Sr. Shinichi Ajiki, visitó Los Estados Unidos Mexicanos del 26 de julio al 6 de agosto de 1993, para la fluida y exitosa implementación de la Cooperación Técnica, concerniente al Proyecto del Centro de Entrenamiento de Televisión Educativa, (en lo sucesivo denominado El Proyecto). Durante su estancia en los Estados Unidos Mexicanos, La Misión intercambió puntos de vista y sostuvo una serie de discusiones con las autoridades mexicanas concernientes respecto a la implementación y avance de los Programas de Cooperación Técnica para el Proyecto.

Como resultado de la investigación y deliberaciones, ambas partes formularon la Minuta de la Reunión, la cual se adjunta.

De haber alguna discrepancia entre el documento redactado y firmado en inglés y el documento redactado y firmado en español prevalece la validez del redactado y firmado en inglés.

México, D.F., 4 de Agosto de 1993.

字展 伸 —

SR. SHINICHI AJIKI
JEFE DE LA MISION JAPONESA DE
ASESORAMIENTO E INVESTIGACION
AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL
DE JAPON (J.I.C.A.) JAPON.

German Fernandez Aguirre

LIC. GERMAN FERNANDEZ AGUIRRE
OFICIAL MAYOR DE LA SECRETARIA DE
EDUCACION PUBLICA (S.E.P.)
ESTADOS UNIDOS MEXICANOS.

TESTIGOS DE HONOR

Pedro Sabau Garcia

ING. PEDRO SABAU GARCIA
DIRECTOR GENERAL DE LA UNIDAD DE
TELEVISION EDUCATIVA (U.T.E.)
ESTADOS UNIDOS MEXICANOS.

Ma. Guadalupe Galvan Sanchez

LIC. MA. GUADALUPE GALVAN SANCHEZ
DIRECTORA DEL CENTRO DE ENTRENAMIENTO
DE TELEVISION EDUCATIVA (C.E.T.E.)
ESTADOS UNIDOS MEXICANOS.

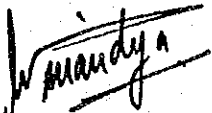
MINUTA DE LA REUNION
ENTRE LA MISION JAPONESA DE ASESORAMIENTO E INVESTIGACION
Y LAS AUTORIDADES DEL GOBIERNO DE LOS ESTADOS UNIDOS MEXICANOS
RELACIONADAS CON COOPERACION TECNICA JAPONESA
PARA EL CENTRO DE ENTRENAMIENTO DE TELEVISION EDUCATIVA

La Misión Japonesa de Asesoramiento e Investigación (en lo sucesivo denominada La Misión), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (J.I.C.A.), encabezada por el Sr. Shinichi Ajiki, visitó Los Estados Unidos Mexicanos del 26 de julio al 6 de agosto de 1993, para la fluida y exitosa implementación de la Cooperación Técnica, concerniente al Proyecto del Centro de Entrenamiento de Televisión Educativa, (en lo sucesivo denominado El Proyecto). Durante su estancia en los Estados Unidos Mexicanos, La Misión intercambió puntos de vista y sostuvo una serie de discusiones con las autoridades mexicanas concernientes respecto a la implementación y avance de los Programas de Cooperación Técnica para el Proyecto.

Como resultado de la investigación y deliberaciones, ambas partes formularon la Minuta de la Reunión, la cual se adjunta.

De haber alguna discrepancia entre el documento redactado y firmado en inglés y el documento redactado y firmado en español prevalece la validez del redactado y firmado en inglés.

México, D.F., 4 de Agosto de 1993.



LIC. GERMAN FERNANDEZ AGUIRRE
OFICIAL MAYOR DE LA SECRETARIA DE
EDUCACION PUBLICA (S.E.P.)
ESTADOS UNIDOS MEXICANOS.



SR. SHINICHI AJIKI
JEFE DE LA MISION JAPONESA DE
ASESORAMIENTO E INVESTIGACION
AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL
DE JAPON (J.I.C.A.) JAPON.

TESTIGOS DE HONOR



ING. PEDRO SABAU GARCIA
DIRECTOR GENERAL DE LA UNIDAD DE
TELEVISION EDUCATIVA (U.T.E.)
ESTADOS UNIDOS MEXICANOS.



LIC. MA. GUADALUPE GALVAN S.
DIRECTORA DEL CENTRO DE
ENTRENAMIENTO DE TELEVISION
EDUCATIVA (C.E.T.E.)
ESTADOS UNIDOS MEXICANOS.

DOCUMENTO ADJUNTO.

1. Estructura Lógica del Proyecto.

La Misión y la parte mexicana estuvieron de acuerdo en que el Proyecto ha tenido un avance firme.

Para facilitar la obtención del propósito del Proyecto, la Misión y la Parte mexicana discutieron y resolvieron los siguientes pasos lógicos para cumplir el "Objetivo del Proyecto", el cual fue estipulado en el Registro de Discusiones (en lo sucesivo denominado "el R/D") firmado el 18 de marzo de 1991.

1.1. Propósito del Proyecto.

El C.E.T.E. estará capacitado para proporcionar entrenamiento al personal técnico y de producción mexicano de U.T.E., así como al personal de otras televisoras en México.

Para lograr el propósito del Proyecto, éste requiere de los siguientes resultados:

1.2 Resultados del Proyecto.

- 1.2.1 Los instructores del C.E.T.E. estarán capacitados para la implementación de los cursos de entrenamiento.
- 1.2.2 El Area Académica del C.E.T.E. estará capacitada para el manejo de programas de los cursos de entrenamiento.
- 1.2.3 El Area Técnica estará capacitada para la coordinación de las instalaciones, equipo y personal técnico.
- 1.2.4 El Area Administrativa estará capacitada para manejar los servicios para los cursos de entrenamiento.

Para producir los resultados anteriores, el Proyecto emprende las siguientes actividades.

1.3. Actividades del Proyecto.

- 1.3.1 Para la implementación de cursos de entrenamiento por el personal Contraparte.
 - 1.3.1.1 Desarrollar materiales de enseñanza.
 - 1.3.1.2 Mejorar los programas de estudio.
 - 1.3.1.3 Dominar la técnica de operación y verificación regular del equipo.
 - 1.3.1.4 Obtener el conocimiento y la habilidad para mejorar el método de enseñanza.
 - 1.3.1.5 Investigar nuevas tecnologías con el objeto de actualizar los cursos.
- 1.3.2. Para el manejo de los cursos de entrenamiento.
 - 1.3.2.1 Formular planes anuales y coordinar la distribución de los cursos por la Subdirección Académica.

- 1.3.2.2 Llevar a cabo la investigación para la detección de demanda para el entrenamiento por el Departamento de Investigación y Evaluación.
- 1.3.2.3 Realizar el seguimiento y evaluación de los efectos del entrenamiento por el Departamento de Investigación y Evaluación.
- 1.3.2.4 Ayudar al personal Contraparte en la producción de materiales didácticos por el Departamento de Diseño y Producción de Materiales.
- 1.3.3 Para la distribución de las instalaciones, el equipo y el personal técnico.
- 1.3.3.1 Asignar las instalaciones, el equipo y el personal técnico necesario - para el desarrollo de los cursos por el Departamento de Control de Operaciones.
- 1.3.3.2 Proporcionar mantenimiento a las instalaciones y equipos por el Departamento de Ingeniería de Mantenimiento.
- 1.3.4 para el manejo de los servicios a los cursos de entrenamiento.
- 1.3.4.1 Llevar a cabo las inscripciones (reclutamiento y selección de participantes) por el Departamento de Difusión y Control Escolar.
- 1.3.4.2 Expedir constancias de participación a los asistentes a cursos por el Departamento de Difusión y Control Escolar.
- 1.3.4.3 Promover las actividades del C.E.T.E. a todo el público por el Departamento de Difusión y Control Escolar.
- 1.3.4.4 Controlar el presupuesto por el Departamento de Enlace Administrativo.
- 1.3.4.5 Verificar el inventario del C.E.T.E. por el Departamento de Enlace Administrativo.

Para conducir las actividades anteriores se requieren los siguientes insumos tanto de la parte japonesa como de la parte mexicana.

- 1.4 Insumos.
- 1.4.1 Parte Japonesa.
- 1.4.1.1 Envío de Expertos.
- 1.4.1.2 Provisión de maquinaria y equipo.
- 1.4.1.3 Entrenamiento del personal Contraparte mexicano en Japón.
- 1.4.2 Parte Mexicana.
- 1.4.2.1 Asignación de Contrapartes y personal administrativo.
- 1.4.2.2 Provisión de terreno, edificio e instalaciones.
- 1.4.2.3 Cubrir los gastos necesarios para la implementación del Proyecto.

2. Demarcación de roles entre la parte japonesa y la parte mexicana.

Ambas partes de manera mutua entienden la demarcación de papeles entre sí para producir en forma efectiva y eficiente los resultados descritos en el punto No. 1.

2.1. Parte Japonesa.

La parte japonesa se concentrará en la transferencia técnica a los instructores del C.E.T.E. para capacitarlos en la implementación de los cursos.

Los otros tres resultados del Proyecto mencionados en el punto 1.2. estarán acompañados parcialmente por los programas de cooperación técnica, pero no dentro del área de enfoque de la cooperación técnica.

2.2. Parte Mexicana.

La parte mexicana será responsable de emprender las actividades del Proyecto, especialmente con miras a consolidar el C.E.T.E. como un todo en la administración de los cursos de entrenamiento, las instalaciones y el equipo.

También será responsable de sostener al C.E.T.E. aun después del término de la Cooperación Técnica prosiguiendo su camino hacia metas de desarrollo más elevadas tales como:

- 2.2.1 El personal mexicano técnico y de producción de la U.T.E. así como el personal de otras televisoras, serán más capaces de producir programas de televisión idóneos.

3. Imponderables del Proyecto.

Ambas partes reconfirmaron tomar las medidas necesarias posibles para garantizar las actividades del Proyecto.

Al mismo tiempo, reconocieron la importancia de observar ciertos imponderables con el objeto de evitar que ejerzan una influencia negativa en el Proyecto.

- 3.1 Reestructuración de la Secretaría de Educación Pública y cambios del personal en las próximas selecciones presidenciales.
- 3.2 Disparidad de ingresos económicos entre trabajadores del Gobierno y las instituciones privadas en el campo de la transmisión televisiva.

4. Seguimiento del Avance del Proyecto.

Ambas partes comprenden que la estructura lógica del Proyecto señala que el Propósito del Proyecto podría ser alcanzado si se prevén los resultados. Además estos resultados previstos se lograrán si las actividades programadas del Proyecto son llevadas a cabo.

Insumos por parte del lado Japonés y del lado Mexicano serán indispensables para que dichas actividades se realicen.

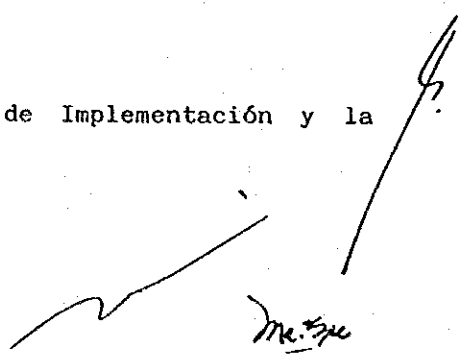
Estos pasos lógicos implican procedimientos para el seguimiento del avance del Proyecto.

4.1 Insumos por ambas partes.

Un cuadro comparativo entre el Programa Tentativo de Implementación y la Implementación Actual (en lo sucesivo referido como "el T.S.I.") es mostrado en el anexo 1.

4.2 Actividades del Proyecto.

Un cuadro comparativo entre el Programa tentativo de Implementación y la Implementación Actual es mostrado en el anexo II.



4.3 Resultados del Proyecto.

Un cuadro comparativo entre el Programa Tentativo de Implementación de los cursos de entrenamiento y la Actual Implementación es mostrado en el anexo III.

5. Programa de Implementación del Proyecto.

5.1 Insumos por ambas partes, ver el T.S.I. en el anexo I.

5.2 Actividades del Proyecto, ver el T.S.I. en el anexo II.

6. Asuntos a resolver.

Aunque ambas partes convinieron haber cumplido casi todos los asuntos de acuerdo al R/D, La Misión y la Parte Mexicana se percataron que aun había que resolver las siguientes cuestiones para la exitosa implementación del Proyecto.

6.1 Parte Japonesa.

Proporcionar la maquinaria y equipo para el año fiscal de 1993 tan pronto como sea posible.

6.2 Parte Mexicana.

- 6.2.1 Tomar las medidas necesarias para mantener al personal Contraparte en su puesto por lo menos durante un año después de haber recibido el entrenamiento en Japón.
- 6.2.2 Tomar las medidas necesarias para mantener al personal técnico en su puesto por lo menos durante un año, una vez que haya recibido el - entrenamiento técnico por parte de los Expertos Japoneses y Contrapartes.
- 6.2.3 Aumentar el número de asistentes de Contraparte y operadores para la implementación de los cursos.
- 6.2.4 Aumentar el salario de Contrapartes y personal administrativo de acuerdo con el alza del costo de vida.
- 6.2.5 Asignar el presupuesto del C.E.T.E. de manera suficiente y puntual a fin de implementar el Proyecto.

7. Otros Asuntos.

- 7.1 Cobro de cuotas de recuperación de los cursos.
La Misión entiende básicamente que el C.E.T.E. cobre cuotas de recuperación de los cursos a los participantes con la condición de que;
 - 7.1.1 El C.E.T.E. funcione como un Centro de Entrenamiento Público.
 - 7.1.2 La Cooperación Técnica japonesa se ha implementado de acuerdo a lo - programado.
- 7.2. Cursos especiales de entrenamiento efectuados por C.E.T.E. de manera independiente usando las instalaciones y equipo.
La Misión no tiene inconveniente en los cursos especiales de entrenamiento enlistados en el anexo IV, siempre y cuando,
La Cooperación Técnica Japonesa sea implementada de acuerdo a lo pro-gramado.

ANEXO I

INSUMOS DE AMBAS PARTES

ANEXO II

ACTIVIDADES DE AMBAS PARTES

ANEXO III

RESULTADOS DE AMBAS PARTES

ANEXO IV

CURSOS ESPECIALES DESARROLLADOS
POR EL C.E.T.E.

ANEXO V

ORGANIGRAMA DEL C.E.T.E.

ANEXO VI

RESUMEN DE PETICIONES Y RESPUESTAS
EN LA JUNTA EJECUTIVA.

ANEXO VII

LA LISTA DE PARTICIPANTES EN LAS
REUNIONES.

DETALLES	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
LADO JAPONES																
1. Envío de expertos a largo plazo. (T.S.I)																
(1) Asesor en jefe			10													
(2) Coordinador			10													
(3) Expertos en el campo de:																
a) Producción de programas			10													
b) Ingeniería de producción																
c) Ingeniería de producción (Instalaciones)			10													
REAL																
(1) Asesor en jefe			10													
(2) Coordinador			10													
(3) Expertos en el campo de:																
a) Producción de programas			10													
b) Ingeniería de producción																
c) Ingeniería de producción (Instalaciones)			10													

255

DETALLES	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
<p>PARTE MEXICANA.</p> <p>1. Servicios de Personal Mexicano.</p> <p>T.S.I.</p> <p>(1) Director General de U.T.E.</p> <p>(2) Director de C.E.T.E.</p> <p>(3) Personal de Contrapartes:</p> <p>a) Producción de Programas</p> <p>b) Ingeniería de Producción</p> <p>c) Ingeniería de Producción (Instalaciones)</p> <p>(4) Personal Administrativo.</p>	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
<p>(Actual)</p> <p>(1) Director General de U.T.E.</p> <p>(2) Director de C.E.T.E.</p> <p>(3) Personal de Contrapartes:</p> <p>a) Producción de Programas</p> <p>b) Ing. de Producción.</p> <p>c) Ing. de Producción. (Instalaciones).</p> <p>(4) Personal Administrativo.</p> <p>a) Administración.</p> <p>b) Contabilidad.</p> <p>c) Secretaria.</p> <p>d) Oficinista.</p> <p>e) Chofer.</p> <p>f) Otros.</p>	4	9	9	10	9	10	10	10	3	3	5					

278

DETALLES	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
2. Actividades para administración de los Cursos.																
T.S.I.																
- Planeación y programación de cursos.	4															
- Detección de necesidades de capacitación								45								
- Supervisión y evaluación del entrenamiento					11											
- Apoyo a la producción de materiales didácticos	4															
REAL																
- Planeación y programación de cursos	4													7		
- Detección de necesidades de capacitación														45		
- Supervisión y evaluación del entrenamiento														7		
- Apoyo a la producción de materiales didácticos	4													7		

68

DETALLES	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
3. Administración de mantenimiento del equipo y asignación																
T.S.I.																
- Asignación de instalaciones para los cursos de entrenamiento.																
- Para mantener instalaciones y equipo.				11												
- Asignación de instalaciones para los cursos de entrenamiento.																
- Para mantener instalaciones y equipo.																
- Asignación de instalaciones para los cursos de entrenamiento.																
- Para mantener instalaciones y equipo.																

256

7/12/2010

DETALLES	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
4. Administración de servicios para los cursos de entrenamiento.	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
T.S.I.																
- Inscripciones (Reclutamiento y selección de participantes para la Investigación y Evaluación del Departamento).	1															
- La Emisión de Certificados de los cursos.	2															
- Promoción de Actividades del CETE hacia el público para la Promoción de Inscripciones.	1															
- Control de Presupuesto asignado por U.T.E. para el Depto. Checar el Inventario por el Depto. Administrativo.	4															
REAL																
- Inscripciones (Reclutamiento y selección de Participantes para la Investigación y Evaluación del Depto.																
- La Emisión de certificados de los cursos.																
- Promoción de Actividades del C.E.F.E. hacia el público para la promoción de Inscripciones.																
- Control de Presupuesto Asignado por U.T.E. para el Depto. Administrativo																
- Checar el Inventario por el Depto. Administrativo.																

SS

DETALLES	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
- Implementación de los cursos de entrenamiento. T.S.I.																
(1) Cámara de T.V.				4	8	10	1									
(2) Iluminación				5	9		2									
(3) Ingeniería de Video y VTR				4			1									
(4) Ingeniería de Audio				6	10		2									
(5) Post-Producción				6			2									
(6) mantenimiento de equipo				8												
(7) Producción de programas (Básico)				4	8		1									
(8) Producción de programas (Avanzada)				6			2									
REAL																
(1) Cámara de T.V.				9	11		4									
(2) Iluminación							2									
(3) Ingeniería de Video y VTR					11		4									
(4) Ingeniería de Audio							3									
(5) Post-producción					11		5									
(6) Mantenimiento de equipo																
(7) Producción de programas (Básico)					11	1										
(8) Producción de programas (Avanzada)							2									

25

Handwritten signature or initials at the top of the page.

DETALLES	1991			1992			1993			1994			1995							
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
1. Implementación de los cursos de entrenamiento. T.S.I.																				
(9) Cursos especiales																				
- Evaluación de programas de televisión educativa																				
- Escenografía para estudio de T.V.																				
- Mantenimiento de VTR e Ingeniería.																				
- Ingeniería de Audio																				
- Producción de programas de T.V. con títeres																				
- Ingeniería de Post-Producción de televisión																				
- Ingeniería de videograbación																				
- Ingeniería de Video para T.V.																				
*10 Prácticas de entrenamiento de programas REAL																				
(9) Cursos especiales																				
- Evaluación de programas de T.V. educativa																				
- Escenografía para estudio de T.V.																				
- Mantenimiento de VTR e Ingeniería																				
- Ingeniería de Audio																				
- Producción de programas de T.V. con títeres.																				
- Ingeniería de Post-Producción de televisión																				
- Ingeniería de videograbación																				
- Ingeniería de video para T.V.																				
10 Prácticas de entrenamiento de producción de programas.																				

Handwritten signature or initials on the right side of the page.

A N E X O IV

CURSOS ESPECIALES DESARROLLADOS POR EL C.E.T.E.

FORMACION DE INSTRUCTORES

ESCENOGRAFIA

GUIONISMO

DIRECCION DE CAMARAS

ADMINISTRACION DE
ESTACIONES DE TELEVISION

MAQUILLAJE

LOCUTORES

VIDEOGRABACION CASERA

ESTRUCTURAS DIDACTICAS
PARA TELEVISION

PROGRAMACION DE LA TRANSMISION

BETACAM

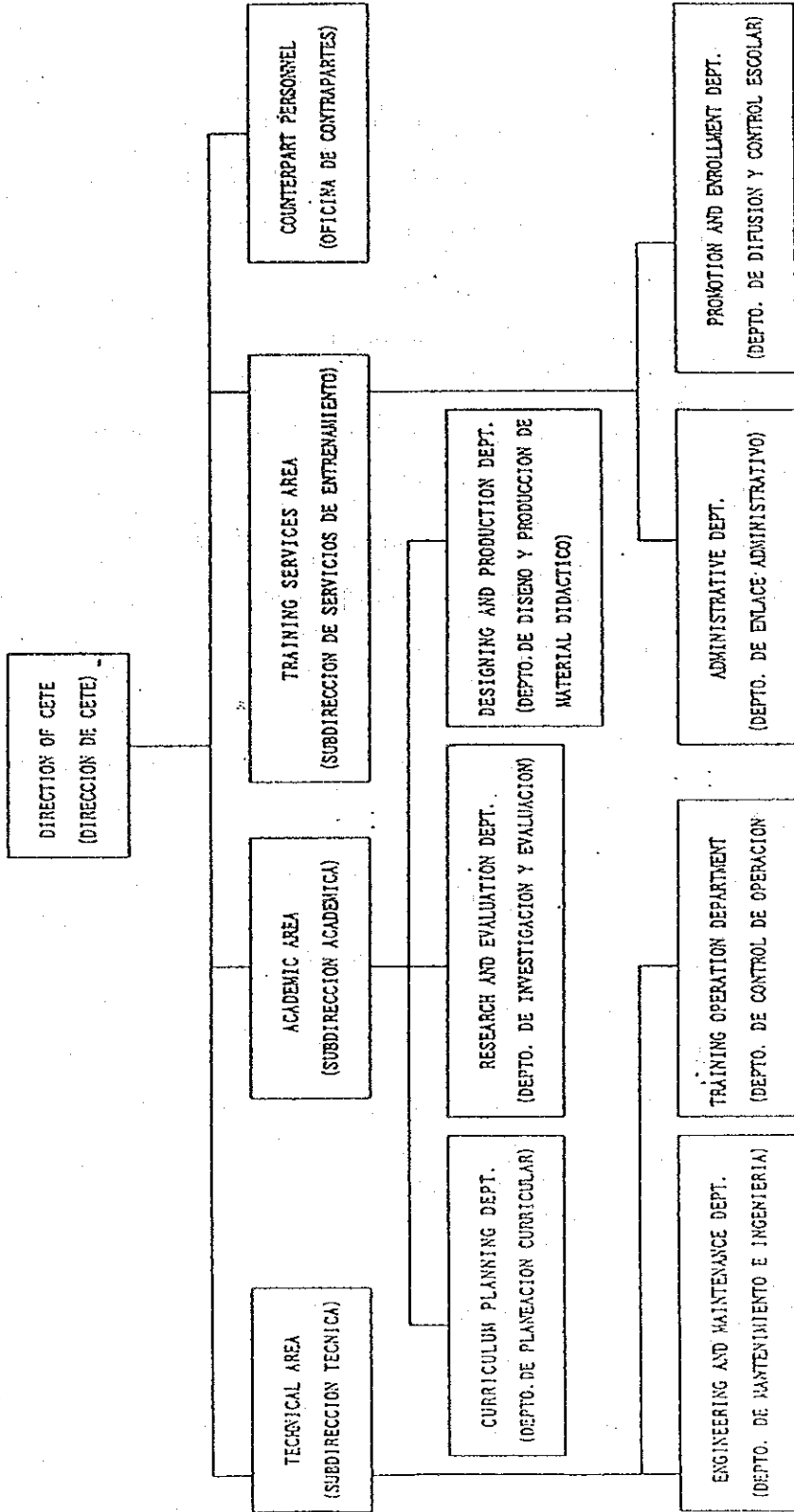
U-MATIC

ANALISIS DEL LENGUAJE TELEVISIVO

ANIMACION

SP

C E T E



Handwritten signature

ANEXO VI

Sobre las Peticiones Japonesas:

1.- El Presupuesto propio del Proyecto C.E.T.R.

Las solicitudes fueron dirigidas hacia estos aspectos:

- a) El incremento del presupuesto con una cantidad complementaria en relación al presupuesto otorgado.
- b) Tener un sistema de empleo más estable.
- c) Procurar no demorar el pago de personal.

La Oficialía Mayor respondió que se ha hecho una revisión del presupuesto y se ha dado ya un incremento:

- a) El presupuesto autorizado fué aumentado de N\$ 692.2 a N\$ 1'409.1 (miles de nuevos pesos con un decimal). Más aún el presupuesto para el mantenimiento de los equipos e instalaciones ha sido revisado para obtener N\$ 450.0 (miles de nuevos pesos).
- b) Para estabilizar al personal, se espera la nueva estructura de la S.E.P., en breve, se tendrá un sistema de empleo con plazas.
- c) Se comparte la preocupación por las demoras en el pago y se tratará de evitar el retraso.

2.- Mejoras en las condiciones laborales del Personal del C.E.T.E.

Las peticiones se enfocaron hacia los siguientes aspectos:

- a) Aumentar los sueldos de Operadores Técnicos.
- b) Incrementar el número de Técnicos.
- c) Revisar el sistema de sueldos de Contrapartes.

La Oficialía Mayor respondió lo siguiente:

- l
- a) Aún cuando no se han concluido los trámites administrativos para -- obtener el presupuesto adicional para el aumento, se espera la autorización de incrementar el monto de N\$ 1,000.00 a N\$ 2,000.00 para los Operadores Técnicos.
 - b) Se va a realizar un estudio para aumentar el número de técnicos, -- por ejemplo incrementar de 11 operadores a 15 operadores en total.
 - c) Establecer un sistema de revisión de sueldos del personal de Con-- traparte. Este sistema debe ser bajo los criterios siguientes:
 - * Periódico y permanente.
 - * Procurando asegurar la permanencia en el proyecto.
 - * Tomando en consideración la estructura de sueldos en relación a otras áreas de la Secretaría.
 - * Tratando de obtener las autorizaciones necesarias ante la Secre-- taría de Hacienda y Crédito Público.

3.- Previsión para el mantenimiento del equipo.

La parte Japonesa insiste en tomar las medidas necesarias para preve-- nir posibles fallas en los equipos después de 1994.

El Oficial Mayor contestó que se han localizado necesidades por -- -- -- N\$ 450.0 (miles de nuevos pesos, con un decimal), para utilizarse en -- la medida que sean requeridos y se tomarán provisiones para que quede-- incluido en el presupuesto de 1994.

[Handwritten signature]

Sobre las Peticiones de la Parte Mexicana:

La Parte mexicana solicitó la confirmación de los siguientes asuntos:

1. Cuotas de recuperación en los cursos.

Para que el C.E.T.E. cuente adicionalmente con otros recursos, aparte del subsidio que otorga la Secretaría de Educación Pública; el Gobierno Mexicano siempre aportará los montos suficientes para el mejor desarrollo de los cursos.

La Parte Japonesa entiende básicamente que las cuotas en los cursos no afectarán la Cooperación Técnica.

También habrá un sistema de becas para los participantes.

Los ingresos generados por las cuotas se aplicarán en apoyo a la operación del C.E.T.E.

2. El empleo más intensivo del C.E.T.E., con todas sus instalaciones y equipos para desarrollar otros cursos.

Los Expertos japoneses están de acuerdo con las siguientes condiciones:

- a) Los 10 cursos mencionados en el Record Discussion tienen prioridad.
- b) La Cooperación Técnica japonesa se implementará como está previsto.
- c) Al realizar la planeación de los cursos es necesario tener reuniones con el líder de Expertos de J.I.C.A., durante el período de cooperación.

3. Sobre los Contrapartes. Se mencionó la necesidad de que estos puedan impartir los cursos del Modelo, un mayor número de veces, además realizar otros.

El equipo Japonés está de acuerdo bajo el cumplimiento de las mismas

condiciones del punto anterior.

4.- Perspectivas y Proyección del C.E.T.E. a futuro.

Dado que el Convenio se encuentra a la mitad del período de realización y en vista de los rápidos cambios y progresos en el panorama mundial -- en cuanto a innovaciones tecnológicas en el campo de la educación a -- distancia (multimedia, videotexto, teleconferencias, aplicaciones in-teractivas, etc.); es importante tener en consideración las posibilidades de tener otro proyecto basado en lo siguiente:

- a) Actualizar el equipo del C.E.T.E.
- b) Definir los nuevos propósitos y objetivos del C.E.T.E.

5.- Provisión de maquinaria y equipo adicional.

La Parte Mexicana entiende que el presupuesto para este proyecto ya se ha gastado en un 95% en la instalación realizada, quedando sólo por -- equipar una cabina de post-producción; el lado Mexicano insiste en la necesidad de tener equipos extra que se propondrán al lado Japonés.

La Parte Japonesa considera que la cooperación técnica implica participación de ambas partes.

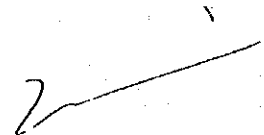
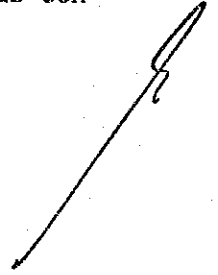
Sin embargo, estudiará la lista de prioridades y verá la posibilidad -- de responder al requerimiento.

6.- Proyectos de cooperación multi-lateral

La Parte Mexicana consideró la posibilidad de tener participantes de -- América Latina, y extender los servicios que se ofrecen en C.E.T.E.

La Parte Japonesa explicó que existen algunos proyectos de cooperación multilateral. Agregaron que para tener un proyecto como el que los -- mexicanos sugieren, es necesario sostener discusiones apropiadas con -- la participación de los países involucrados.

lg



Mr. M.

ANEXO VII. LISTA DE PARTICIPANTES EN LA JUNTA.
LISTA DE PARTICIPANTES JAPONESES.

EMBAJADA

SR. TOSHIYUKI YANAGISAWA

TERCER SECRETARIO DE LA EMBAJADA

JICA

SR. HIROSHI SAITO
SRITA. HIROMI FUJISAWA

DIRECTOR GENERAL DE JICA-MEXICO
SUBDIRECTOR DE JICA-MEXICO

MISION DE ASESORAMIENTO E
INVESTIGACION DE JICA

SR. SHINICHI AJIKI

SUBDIRECTOR DEL DEPARTAMENTO DE
COOPERACION INTERNACIONAL DE LA
SECRETARIA DE CORREOS Y TELECO-
MUNICACIONES.

SR. DAISUKE NISHIMURA

SUBDIRECTOR DEL DEPARTAMENTO DE
RELACIONES INTERNACIONALES DE -
NHK.

SR. FUJIO KOIKE

ENCARGADO DEL SUMINISTRO DE EQUI-
POS DE RADIO Y TELEVISION DEL -
DEPARTAMENTO DE ADMINISTRACION-
DE INGENIERIA DE NHK.

SR. KAZUYOSHI SHINOYAMA

ENCARGADO DE COOPERACION TECNO-
LOGICA TIPO PROYECTO, SEGUNDO -
DEPARTAMENTO DE COOPERACION TEC
NOLOGICA DE JICA-JAPON.

EXPERTOS JAPONESES DEL CETE

SR. KEI MIYAZAKI

JEFE DE LOS EXPERTOS.

SR. SHINICHI FUNAYAMA

EXPERTO DE PRODUCCION.

SR. TAKESHI IIDA

EXPERTO EN INGENIERIA DE PRODUC
CION.

SR. YASUKAZU YOKOI

EXPERTO DE INGENIERIA EN MANTE-
NIMIENTO.

SRITA. NAOKO MOCHIZUKI

COORDINADORA DE JICA EN CETE.

SRITA. YUKO YAGI

INTERPRETE.

EL GRUPO MEXICANO

LIC. GERMAN FERNANDEZ AGUIRRE

OFICIAL MAYOR DE LA SECRETARIA DE
EDUCACION PUBLICA.
ESTADOS UNIDOS MEXICANOS.

ING. PEDRO SABAU GARCIA

DIRECTOR GENERAL DE LA UNIDAD DE
TELEVISION EDUCATIVA.

LIC. MA. GUADALUPE GALVAN S.

DIRECTORA DEL C.E.T.E.

LIC. MARCO ANTONIO ESPINOSA DE
LOS MONTEROS.

PROSECRETARIO TECNICO DE LA COMISION
INTERNA DE ADMINISTRACION PUBLICA.

ING. ARTURO SANTAMARIA ALDANA

CONTRAPARTE DE INGENIERIA DE
PRODUCCION.

ING. CARLOS GARCIA QUIROZ

CONTRAPARTE DE INGENIERIA DE
INSTALACION Y MANTENIMIENTO.

LIC. LAURA E. PRIANTI CANTON

SUBDIRECTORA TECNICA DEL C.E.T.E.

LIC. LUIS MIGUEL RIVERO

CONTRAPARTE DE PRODUCCION

C.P. ALFONSO ANGELES VENEGAS

JEFE DEL DEPARTAMENTO DE ENLACE
ADMINISTRATIVO C.E.T.E.

PROFR. JORGE OJANGUREN ROMERO

INTERPRETE C.E.T.E.

SRTA. VERONICA URIBE SANCHEZ

SECRETARIA.

(3) ミニッツ仮訳

教育テレビ研修センターへの日本の技術協力に関する
日本の巡回指導調査団とメキシコ合衆国政府の
関係当局の間のミニッツ

国際協力事業団が組織し、安食伸一氏を団長とする日本側巡回指導調査団（以下“チーム”とする。）は、教育テレビ研修センタープロジェクト（以下“プロジェクト”とする。）に関する技術協力の円滑かつ実り多い実行のために、1993年7月26日から1993年8月6日まで、メキシコ合衆国を訪問した。メキシコ合衆国に滞在中、チームはプロジェクトに対する技術協力計画の実施と進展に関して、メキシコの関係当局と意見を交換し、一連の討議を行った。

調査と討議の結果、双方はここに添付したミニッツを作成した。

1993年8月4日、於メキシコシティー

メキシコ合衆国

文部省長官

ジャーマン フェルナンデス アギーレ氏

日本、国際協力事業団

巡回指導調査団

団長 安食 伸一氏

立会人

メキシコ合衆国

UTE局長

ベドロ サバウ ガルシア氏

メキシコ合衆国

UTE

CETE所長

マリア ガダルーベ

ガルバン S. 女史

添付書類

1. プロジェクトの論理的な枠組み

チームおよびメキシコ側の双方は、プロジェクトが着実に進行していることについて意見の一致を見た。

プロジェクト目的の達成への道を整備するため、チーム及びメキシコ側は、討議の上、1991年3月18日付で署名された討議議事録（以下“R/D”とする）に定められている“プロジェクトの目標”を実現するため、次のような論理的な段階を設定した。

1.1 プロジェクトの目的

CETEが、メキシコの他のテレビスタッフと同様に、UTEのメキシコの技術及び制作スタッフを教育することができるようになる。

このプロジェクト目的を達成するために、プロジェクトは、以下の成果を上げなくてはならない。

1.2 プロジェクトの成果

1.2.1 CETEの指導員が研修コースを実施できるようになる。

1.2.2 学術部が、研修コースの日程を管理できるようになる。

1.2.3 技術部が、施設、設備、及び技術スタッフを手配できるようになる。

1.2.4 管理部が、研修コースの業務を運営できるようになる。

以上の成果を生み出すために、プロジェクトは以下の活動を行う。

1.3 プロジェクトの活動

1.3.1 研修コースの実施のため、カウンターパートによって、

- 1.3.1.1 教材を作成する。
- 1.3.1.2 カリキュラムと授業計画を改善する。
- 1.3.1.3 設備の操作及び定期点検の技術を習得する。
- 1.3.1.4 教授法の改善のための知識と技術を獲得する。
- 1.3.1.5 コースを時代に合ったものとするための新技術を研究する。

1.3.2 訓練コースの運営のために

- 1.3.2.1 学術部の部長が、年間計画を作成し、コースの配列を調整する。
- 1.3.2.2 調査・評価課が、研修に対する研修生需要の調査を行う。
- 1.3.2.3 調査・評価課が、研修効果を監視し評定する。
- 1.3.2.4 企画・制作課が、対をなす立場の職員の教材作成を補佐する。

1.3.3 施設、設備、技術スタッフの準備のために

- 1.3.3.1 研修運営課が、施設、設備、及び技術スタッフを研修コースに割り当てる。
- 1.3.3.2 技術・保守課が、施設や設備の保守管理を行う。

1.3.4 訓練コースの業務を運営するために

- 1.3.4.1 広報・登録課が、登録（研修生の採用と選抜）を管理する。
- 1.3.4.2 広報・登録課が、訓練コースの証明書を発行する。
- 1.3.4.3 広報・登録課が、C E T Eの活動を一般に宣伝する。

1.3.4.4 管理課が、予算を統制する。

1.3.4.5 管理課が、CETEの財産目録をチェックする。

以上の様々な活動を行うため、日本とメキシコの双方により、次の通りの投入が必要とされる。

1.4 投入

1.4.1 日本側

1.4.1.1 専門家の派遣

1.4.1.2 機械及び設備の提供

1.4.1.3 カウンターパートのメキシコ人職員の日本における訓練

1.4.2 メキシコ側

1.4.2.1 カウンターパートの職員及び管理部門職員の任命

1.4.2.2 土地、建物、及び施設の提供

1.4.2.3 プロジェクトの実施のために必要な運転費用

2. 日本側とメキシコ側の間の役割分担

双方は互いに、日本側とメキシコ側の間のこの役割分担が、1に記載された成果を効果的かつ効率的に生み出すと理解している。

2.1 日本側

日本側は、CETEの指導員が訓練コースを実施することが可能となるように、彼らへの技術の移転に専念することを心がける。

前の1.2に記載された他の3つの成果は、日本の技術協力プログラムに部分的に随伴するものであるが、技術協力が焦点を合わせている範囲内にはない。

2.2 メキシコ側

メキシコ側は、プロジェクトの活動のすべてを実行する責任を負うが、特に、研修コース、施設、及び設備を運営するために、CETEを全体として構築することを目標とする。

更に、技術協力の期間の後も、CETEが以下のより高い発展の目標に向けて前進して行くのを支える責任も負う。

2.2.1 UTEのメキシコ側技術・制作スタッフが、メキシコのテレビ制作スタッフと同様に、更に質の高いテレビ番組を制作できるようになる。

3. プロジェクトによる統制が不可能な事柄

チーム及びメキシコ側の双方は、可能な限り、プロジェクトの活動を実行するのに必要な手段を講じることを再確認した。

同時に、双方は、次のような、統制の及ばないある種の事柄がプロジェクトに悪影響を及ぼさないように、それらを監視することの重要性を認知した。

3.1 文部省の改革や来るべき大統領選挙の際の人的交替

3.2 放送の分野における政府と民間の労働者の間の所得格差

4. プロジェクトの進行の監視

プロジェクト目的はプロジェクトが期待される成果を生み出した時に達成されるということが、プロジェクトの論理的枠組みから明らかであると双方は理解している。

そして、期待される成果は、プロジェクト活動が予定通り実行される場合に実現を見るだろう。

日本側とメキシコ側の双方からの投入は、プロジェクト活動を実行するのに不可欠のものであ

る。

以上の段階論法から、プロジェクトの進行を監視するための処置が必然的に導きだされる。

4.1 双方からの投入

仮実施予定表と実際の実施状況との比較（以下“T. S. I.”とする）が別表Ⅰに示されている。

4.2 プロジェクト活動

T. S. I. と実際の実施状況との比較が別表Ⅱに示されている。

4.3 プロジェクトの成果

研修コースのT. S. I. と実際の実施状況との比較が別表Ⅲに示されている。

5. プロジェクトの実行予定表

5.1 双方からの投入

別表ⅠのT. S. I. 参照。

5.2 プロジェクト活動

別表ⅡのT. S. I. 参照。

6. 解決すべき問題

双方は、概ね、事柄がR/Dに従って実行されてきたことを認めているが、チームもメキシコ側も、プロジェクトの実施の成功のためには、未だに解決すべき以下のような問題があることを理解している。

6.1 日本側の問題

可及的速やかに、1993会計年度についての機器と設備を供給する。

6.2 メキシコ側の問題

- 6.2.1 日本における技術研修の後、最低1年は、対の立場の職員をその職に留めておくため、必要な手段を講じる。
- 6.2.2 専門家及び対の立場の職員から、技術研修を受けてから最低1年は、操作技師をその職に留めておくため、必要な手段を講じる。
- 6.2.3 訓練コースの実施のために、カウンターパートの職員とオペレーターについて補助者の数を増やす。
- 6.2.4 生活費の変化に従って、カウンターパートと管理部門の職員の俸給を上げる。
- 6.2.5 プロジェクトを実施するために、十分に、又、適時に、C E T Eに予算を配分する。

7. その他の論点

7.1 受講料の徴収

チームは、C E T Eが以下の条件の下に研修生から受講料を徴収することを、基本的に了解している。

- 7.1.1 C E T Eが公的な研修センターとして機能する。
- 7.1.2 日本の技術協力が予定通り実施される。

7.2 施設及び設備を利用してC E T Eが独立に行う特別の研修コース

チームは、日本の技術協力が予定通りに実施されることを条件として、別表IVに記載されている特別の研修コースを正当に評価する。

別表Ⅰ. 双方による投入

別表Ⅱ. 双方の活動

別表Ⅲ. 双方による成果

別表Ⅳ. C E T Eが行う特別の訓練コース

別表Ⅴ. C E T E組織図

別表Ⅵ. 合同委員会会議における質疑応答の概要

別表Ⅶ. 会議参加者リスト

別表 I. T.S.I.と実際の実施状況との比較

(技術協力の期間 1991年4月1日-1996年3月31日)

項 目	1991			1992			1993			1994			1995		
	4	7	10	4	7	10	4	7	10	4	7	10	4	7	10
日本側															
1. 長期の専門家の派遣 (T.S.I.)															
4-641-5-1															
(1) 首席顧問			10												
(2) 調整係			10												
(3) 各分野の専門家			10												
a) 番組制作															
b) 制作技術															
c) 制作技術 (施設)			4												
(実況)															
4-641-5-1															
(1) 首席顧問			10												
(2) 調整係			10												
(3) 各分野の専門家			10												
a) 番組制作															
b) 制作技術															
c) 制作技術 (施設)			4												

別表 I. T.S.I. と実際の実施状況との比較

(技術協力の期間 1991年4月1日 - 1996年3月31日)

項 目	1991			1992			1993			1994			1995		
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10
メキシコ側															
1. メキシコの人員の勤務 (T.S.I.)															
(1) UTE局長	4														
(2) CETE理事															
(3) 対老若男女立場の職員 カウンター															
a) 番組制作	10														
b) 制作技術															
c) 制作技術 (施設)	10														
(4) 管理部門職員	10														
(実況)															
(1) UTE局長	4														
(2) CETE理事 所長															
(3) 対老若男女立場の職員 カウンター															
a) 番組制作	9														
b) 制作技術	9														
c) 制作技術 (施設)	10														
(4) 管理部門職員															
a) 管理	10														
b) 会計	10														
c) 秘書	3														
e) 事務員	3														
f) 運転手	5														
g) その他															

別表 I. T.S.I.と実際の実施状況との比較

(技術協力の期間 1991年4月1日-1996年3月31日)

項 目	1991			1992			1993			1994			1995			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
メキシコ側 プロジェクトのための土地、 建物及び施設 (T.S.I.)																
(実況) (1) 土地、建物、施設の利用 (2) スタジオの利用																

別表Ⅱ. T. S. I. と実際の実施状況との比較

(技術協力の期間 1991年4月1日～1996年3月31日)

項 目	1991	1992	1993	1994	1995
活動					
1. 研修コースの実施	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T. S. I.)					
1. 教材	作成				改訂
2. カリキュラムと授業計画	考察			改訂	改善
3. 設備の操作及び定期点検の技術			改善		
4. 教授法の改善のための知識と技術					
5. 新技術の研究					
(実況)					
1. 教材	作成				
2. カリキュラムと授業計画	考察				
3. 設備の操作及び定期点検の技術			改善		
4. 教授法の改善のための知識と技術					
5. 新技術の研究					

別表II. T.S.I.と実際の実施状況との比較

(技術協力の期間 1991年4月1日 - 1996年3月31日)

項 目	1991	1992	1993	1994	1995
活動内容 2. 研修コースの日程の管理	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T.S.I.) 1. 年間プランとコースの配置 2. 研修生需要の調査 3. 研修コースの監視と評価 4. 対の立場の職員の教材作成の補佐		11	45		
(現況) 1. 年間プランとコースの配置 2. 研修生需要の調査 3. 研修コースの監視と評価 4. 対の立場の職員の教材作成の補佐		11	45		

別表Ⅱ. T.S.I.と実際の実施状況との比較

(技術協力の期間 1991年4月1日 - 1996年3月31日)

項 目	1991	1992	1993	1994	1995
活動 3. 施設、設備、技術スタッフの 手配	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T.S.I.) 1. 研修コースのための施設、設 備及び技術スタッフの割り当 て	4				
2. 施設及び設備の保守管理 割り当	11				
(実況) 1. 研修コースのための施設、設 備及び技術スタッフの割り当 て	4				
2. 施設及び設備の保守管理	3				

別表II. T.S.I.と実際の実施状況との比較

(技術協力の期間 1991年4月1日-1996年3月31日)

項 目	1991	1992	1993	1994	1995
活動					
4. 研修コースの業務の運営	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T.S.I.)					
1. 登録の管理	1				
2. 研修コースの証明書の発行	2				
3. CETEの活動の一般への宣 伝	1				
4. 予算の管理	4				
5. CETEの目録のチェック	11				
(実況)					
1. 登録の管理		7			
2. 研修コースの証明書の発行		8			
3. CETEの活動の一般への宣 伝		1			
4. UTEより割当の予算の管理	3				
5. CETEの目録のチェック			6		

別表Ⅲ. T. S. I. と実際の実施状況との比較

(技術協力の期間 1991年4月1日～1996年3月31日)

項 目	1991	1992	1993	1994	1995
プロジェクトの成果 研修コースの実施 5453	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T. S. I.)			(繰り返し)	(繰り返し)	(繰り返し)
(1) テレビカメラ		1 2			
(2) 照明	4 8 9	4 8 9			
(3) 映像とビデオ録画技術		1 2 2			
(4) 音響技術	4 5 6 6	4 6 10 2			
(5) 制作後作業		8 8			
(6) 設備の保守管理	4 6	4 6 10 2			
(7) 番組制作 (基礎)					
(8) 番組制作 (上級)					
(実況)					
(1) テレビカメラ		9 11	4		
(2) 照明		2	4		
(3) 映像とビデオ録画技術		11 3			
(4) 音響技術		11	5		
(5) 制作後作業		11			
(6) 設備の保守管理		11 1 2	4 5		
(7) 番組制作 (基礎)					
(8) 番組制作 (上級)					

別表Ⅲ. T.S.I.と実際の実施状況との比較

(技術協力の期間 1991年4月1日-1996年3月31日)

項目	1991	1992	1993	1994	1995
プロジェクトの成果 研修コースの実施	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
(T.S.I.) 特別コース 1. テレビ教育番組の評価 2. スタジオ舞台装置 3. ビデオ録画技術の保守 4. 音響技術 5. TV人形劇番組制作 6. TV制作後作業技術 7. TVフィルム技術 8. TVビデオ技術 ⑩ 番組制作の実践的訓練	7 8 <u>11 12</u> 2 3 1 2	7 8 <u>11 12</u> 2 3 1 2	7 8 <u>9 10</u> 10 12 1 2		
(実況) (9) 特別コース 1. テレビ教育番組の評価 2. スタジオ舞台装置 3. ビデオ録画技術の保守 4. 音響技術 5. TV人形劇番組制作 ⑩ 番組制作の実践的訓練	7 8 <u>11 12</u> 1 2 2 3	7 8 <u>11 12</u> 1 2 2 3	7 8		

別表Ⅳ. C E T Eが行う特別の訓練コース

指導員研修

スタジオ舞台装置

TV番組の台本

カメラ指導

放送局の運営

メイクアップ

アナウンサー講習会の開催

ビデオホーム

テレビ番組に対する啓蒙

TV送信の管理

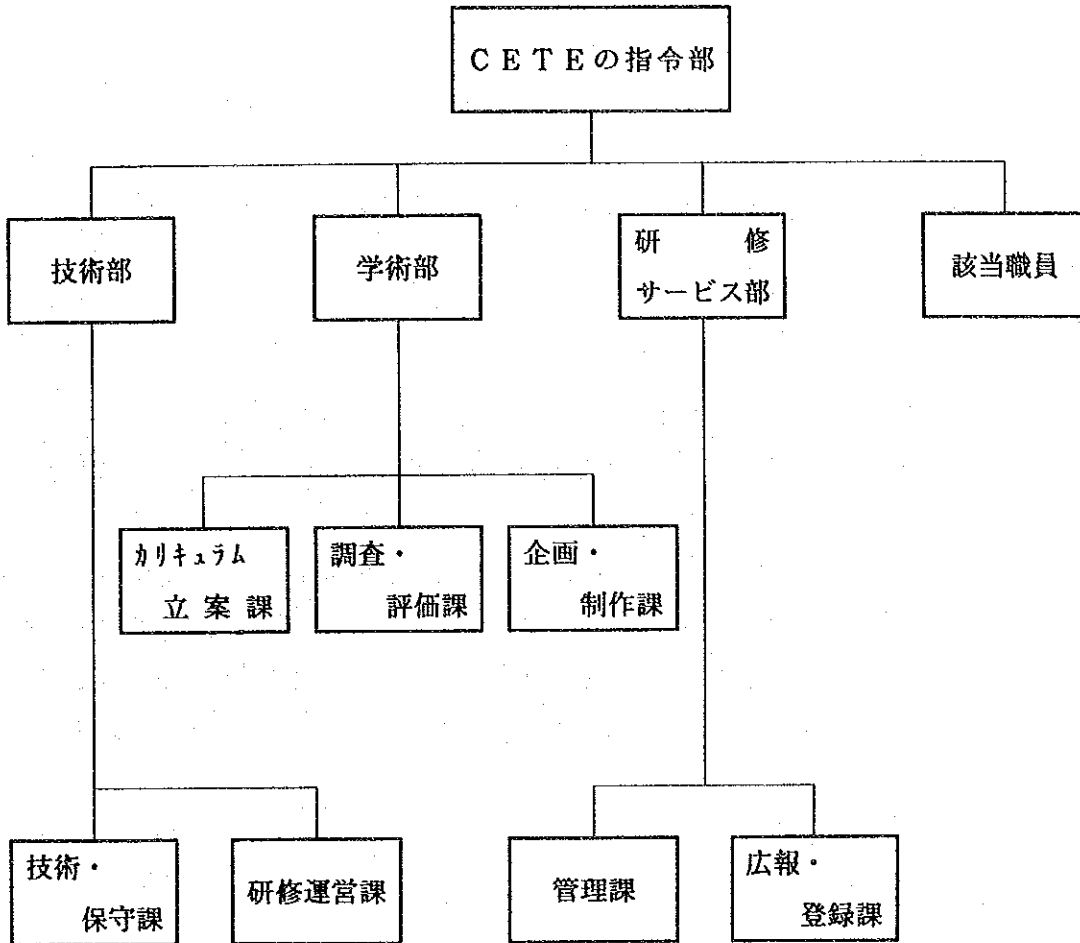
ベータカム

U-マティック

TV言語分析

アニメーション

別表V. C E T E組織図



別表Ⅵ. 合同委員会会議における質疑応答の概要

日本側の要望について

1. C E T Eの個別の予算

次の各点について要望が寄せられた。

- a) 割り当てられた予算に関して、補足の金額を上乗せすること。
- b) 雇用制度をより安定的なものにすること。
- c) 職員の支払いが遅れないように努めること。

- a) 長官は、予算は改訂済みで、既に増額の承認がなされていると応えた。

承認された職員向けの予算は、694.2(千新ペソ)から1,409.1(千新ペソ)に増額されている。

更に、設備・施設の保守のための予算は修正されて、450.0(千新ペソ)を獲得している。

- b) 職員の安定化をはかるため、我々は、ごく近いうちにSEPの再編成を予定している。
そうならば、我々は、役職を元にして作られた長期の雇用制度を持つことになるだろう。
- c) 我々も、支払いの遅延については同様の関心を持っているところで、遅延を避けるべく努力する。

2. C E T E職員の労働条件の改善

要望は、以下の諸点に向けられた。

- a) 操作技師の俸給を値上げする。
- b) 操作技師の数を増やす。
- c) カウンターパートの収入の制度を改訂する。

長官は以下の通り返答した。

- a) そうはいつでも、追加予算を得る管理上の手続きが必要で、我々は操作技師のための金額を1,000.00(新ペソ)から2,000.00(新ペソ)に増額する承認を待たなければならない。
- b) 操作技師の人数を増やすために調査が行われる手筈になっている。例として、11人から15人への増員。
- c) カウンターパートの所得を改訂するためのシステムを構築する。
この制度は以下の条件に従っていないなければならない。
- 永続的かつ定期的

- 職員のプロジェクトへの定着を目的とする。
- SEPの他部門の俸給を考慮に入れる。
- 国家財務省の必要な承認を得る努力をする。

3. 設備の保守管理のための準備

日本側は、1994年以降、設備に発生する可能性のある不具合を防止する適切な手段を講じることがを主張した。

長官は、要請されている通り、450.0(千新ペソ) が使用される必要性を認識しており、1994年の予算にある程度の準備が盛り込まれる予定であると答えた。

メキシコ側の要望

メキシコ側は、以下の点の確認を求めた。

1. 受講料の徴収

追加財源を得るために、SEPにより割り当てられた予算の他に、メキシコ政府は絶えず、コースの発展のために必要な金額を供給する。

日本側は、技術協力に影響を及ぼさないという条件の下に、CETEが受講料を徴収することを基本的に理解している。

更に、研修生のための奨学金制度も置かれるだろう。

受講料によって生み出される収入は、CETEの活動の維持に当てられる予定である。

2. 他のコースを開発するための、CETEの施設や設備のより集約的な利用

日本側は、以下の条件に基づいて合意する。

- a) R/Dの10コースが優先順位を持つ。
- b) 日本の技術協力が予定通りに実施される。
- c) 技術協力の期間中、コースを計画する段階で、JICAのチームリーダーとの協議を行うことが必要である。

3. カウンターパートについて

彼らが、予定より多くの研修コースやその他のコースを実施することができる旨、述べられた。

日本側はそれに同意したが、但し第2項と同一の条件に基づく。

4. C E T E の将来の展望

プロジェクトは、その道程の半ばにあり、又、遠隔教育（混同メディア、ビデオテキスト、講義等）の分野における新技術に関して世界の急激な進歩に直面しているので、以下に基づいて別のプロジェクトを作る可能性を考慮に入れることが重要である。

- a) C E T E の設備を活用すること
- b) C E T E のより高い目的や目標を定めること

日本側は、このことを心に留めておくこととした。

5. 追加的な機械や設備の供給

メキシコ側は、プロジェクトのための予算が既に支出され、制作後の作業室のための設備のみを残して、設置工事の95%が終了していることを理解している。メキシコ側は、追加設備を持つ必要性を主張しており、それは日本側へ申し入れがなされるだろう。

日本側は、技術協力は双方の参加を当然の内容とするものだと考えている。

とはいえ、日本側は優先順位リストを検討し、この要望を実現する可能性について調べる予定である。

6. 多国間協力のプロジェクト

メキシコ側は、ラテンアメリカからの研修生を受け入れ、C E T E により提供されるサービスを拡大する可能性を考慮した。

日本側は、多国間協力のプロジェクトは幾つか存在すると説明した。メキシコ側が示唆するような種類のプロジェクトを持つためには、関係する国々の参加について適切な協議を行うことが必要であると付け加えた。

別表Ⅶ. 会議参加者リスト

日本側参加者リスト

在メキシコ日本大使館

柳澤 敏之 氏 大使館三等書記官

JICA

斉藤 寛 氏 JICA-メキシコ事務所長

藤沢ひろみ 女史 JICA-メキシコ事務所員

巡回指導調査団

安食 伸一 氏 郵政省 大臣官房国際部 国際協力課 課長補佐

西村 大介 氏 NHK 海外企画局海外渉外 副部長

小池不二男 氏 NHK 技術局 施設業務部

篠山 和良 氏 JICA 社会開発協力部 社会開発
協力第二課 職員

CETE専門家

宮崎 馨 氏 チームリーダー

船山 真一 氏 番組制作専門家

飯田 武 氏 制作技術専門家

横井 康和 氏 制作技術(施設)専門家

望月 直子 女史 業務調整員

八木 優子 女史 通訳

メキシコ側チーム

ジャーマン フェルナンデス アギーレ氏

ベドロ サバウ ガルシア氏

マリア ガダルーベ ガルバン S. 女史

マルコ アントニオ エスピノーザ デ ロス モンテロス氏

アルトロ サンタマリア アルダーナ氏

カルロス ガルシア クイロス氏

ローラ E. プリアンティ カントン女史

ルイス ミゲル リベロ氏

アルフォンソ アンフェラス ベネガス氏

ジョージ オジャンガレン ロメロ氏

ペロニカ ユーリベ サンチェス嬢

メキシコ合衆国文部省長官

テレビ教育局局長

CETE所長

行政機関の内部委員会事務長

制作技術カウンターパート

制作技術(施設)カウンターパート

CETE 学術部次長

番組制作カウンターパート

CETE 管理課長

CETE 通訳

秘書

3. プロジェクトの進捗状況

3-1 投入計画と実績

研修センター施設は、スタジオ施設が完成、1992年度分供与機材の搬入・据え付けもほぼ終り、1992年10月から1993年6月末までにR/Dに記載された10の研修・訓練コースが実施され、合計126名がこれに参加したほか、短期専門家を講師として特別研修や地方研修も行われた。

また特別講師やカウンターパートによるCETE独自の研修も実施される等、着実にその成果を達成しつつある。

3-1-1 日本側投入

(1) 専門家派遣

CETEの円滑な運営に支障を来さないように、長期専門家の帰任時期を変更することで、既に本人及び派遣元より了解を取付けており、先方機関からも正式要請を取付けた。

宮崎リーダー 1994年10月9日まで1年延長

船山専門家 1994年3月9日まで5ヵ月延長

望月調整員 1994年10月30日まで1年延長

10月に帰任する横井専門家についても後任は決定済みである。

短期専門家は今年度これまでに機材据付け専門家5名及び人形劇の専門家1名を派遣した。

*これまでの専門家派遣の詳細については添付別紙を参照。

(2) 機材購入

供与機材については、1992年度供与後期分は1993年7月据付け工事を完了した。予定機材のほとんどが供与されたことになり、研修センターとしての機能は十分に発揮している。

1993年度供与機材について、購入及び輸送内容と時期は以下の通りである。

供与予定金額：約30,000千円（この内27,000千円が日本での購入・輸送）

内 容：ほぼ申請どおり購入・輸送見込み。

契約時期：外務省との機材実施協議で承認され、8月中に契約を結ぶ予定。

購入輸送時期：横井専門家の帰国前に据え付け完了を要望しており、据え付け専門家による同時携行で対応する。

また、1994年度についても先方機関から機材供与の要望があり、優先順位と理由を付けて後日提出するように依頼した。

*これまでの機材購入実績の詳細については添付別紙を参照。

(3) 研修員受入れ

研修員については、1992年度は4名を受け入れた。1993年度については先方機関が5名の派遣を希望している（うち1名は1993.7日本で研修中）。

3-1-2 メキシコ側投入

(1) カウンターパートの配置

専門家1人につき2名のカウンターパートを配置する約束は達成されているが、日本研修後、配置替えや転職により、研修成果を直接発揮できなかった場合があった。

離職防止のためにもカウンターパートの給与見直しシステムの確立が必要である。

また、専門家1人につき2名のカウンターパートの配置がR/Dに規定されているが、10コースある訓練コースを維持するのは不十分であり、転職等で欠員が生じた場合に対応不能になる。特に制作技術分野(4コース実施)に問題があり、現在2名のアシスタントカウンターパートを置いているが、さらに増員の必要があり、メキシコ側に要望した。

*これまでの配置状況については添付別紙を参照。

(2) 建物・施設等の提供

研修・訓練コース実施に必要な建物・施設は、1992年に完成、1992年度分供与機材の搬入・据え付けもほぼ終わっている。しかしスタジオフロアの表面に凸凹があり、平坦化の手直しをしたが現在でも完全ではない。スタジオの内装工事のような制度の高い工事は難しいようである。

(3) プロジェクト実施のための予算措置

CETEの運営に必要な費用—人件費、管理費、業務活動費等はメキシコ側の負担となっているが、メキシコ文部省のリストラが進行中で、CETEの位置づけ、独自の予算が確立されておらず、明示された予算額も驚くほど小額である。

1993年度CETEの予算	(3 N \$ = 1 USドル)
人件費	1,409,000 N \$
間接費(保守・部品購入・維持費用)	450,000 N \$

*詳細については別紙のローカルコスト負担実績を参照。

3-2 プロジェクトの活動

3-2-1 技術移転状況

(1) カウンターパート育成状況

カウンターパートへの技術移転は、順調に実施されており、現在のペースで指導を続ければ、概ねR/D終了時まで、

技術習得
教材作成
教材操作・管理
訓練計画作成
クラス運営能力
強化指導能力

各分野にわたって技術移転が完了する予定である。

しかし、前述のように離職する場合があります、待遇改善等離職防止策を講ずる必要がある。

また、番組制作の研修には技術オペレータの参加が不可欠であるが、オペレータの定着率の悪さが技術移転及び研修コース実施上支障を来すことになる。オペレータの増員と処遇改善が必要であり、メキシコ側に要望した。

またカウンターパート育成の評価方法については、客観的な指標化・図式化が難しいとの現地専門家の指摘があり、協議の上とりあえずは別紙のような評価表となった。

*詳細については添付別紙を参照。

(2) 教材整備状況

テキストについて各コース1冊づつ8種が作成済みである。さらに内容の見直し充実、あるいは研修効果の高い視覚教材の作成を予定している。

*詳細については添付別紙を参照。

3-2-2 訓練コースの運営管理

(1) 訓練コースの実施状況

1992年10月から1993年6月末までにR/Dに記載された10の研修・訓練コースが実施計画に基づいて実施され、合計126名がこれに参加した。

このほか1992年10月～12月に短期専門家を講師として特別研修が地方実施も含めて2コース、1993年1月～6月にもやはり短期専門家を講師として特別研修が地方実施も含めて2コース実施され、それぞれ25名、58名が参加した。

また、UTE職員等特別講師やカウンターパートによるCETE独自の研修も10コース実施され、222名が参加した。主なものは、台本研修、テレビ言語の構造分析、アナウンス研修等である。

(2) 訓練コースの計画と実績評価

評価システムが確立していないので、訓練コースの充実度については、各担当インストラクターが採点、受講生の習得度については、教務部門が受講生に行ったアンケートによった。

*訓練コースの計画と実績詳細については添付別紙を参照。

3-2-3 施設、機材の保守管理

これまでスタジオの映像・音声・照明設備等の機材が供与された。なお、1992年度予算による供与機材の後期分は今年7月に納入据付け工事を完了し、1993年度予算による供与機材は9月頃納入予定である。これらの機材は順調に機能しており、技術移転に有効に活用されている。保守・管理については、「機材管理台帳」を作成し、設置場所・利用状況・管理状況等厳格に管理されている。これらの機材はまだ新しいので順調に機能しているが、今後使用条件により消耗部品の定期的交換や故障修理があり、予算措置が必要である。先方機関は保守管理予算の必要性を認識しており、今年度は保守・部品購入等の間接費15万ドルの予算が追加された。来年以降も安定的に予算確保をすることが必要である。

4. プロジェクトの実施環境と実施体制

4-1 実施機関の組織

文部省

UTE (教育テレビ番組制作局)

CETE (教育テレビ番組研修センター)

*組織図については添付別紙を参照。

CETEの今後の運営形態 — 別紙参照

CETEの運営に必要な要員及び予算の確保については、今回の協議でも活発に意見交換を行い、現在38あるCETEのポストについて安定した雇用形態と給与の改善、また研修・訓練コース実施に支障を来さないよう、アシスタント・カウンターパートやオペレーターの増員を強く要望した。予算に関しては、CETE独自の予算の確立及び予算額の明示と増強を強く要望した。

これに対してメキシコ文部省側は、目下文部省全体のリストラが進行中であり、CETEの新構成についても間もなく承認される予定で、その段階で職員の雇用形態も改善できるとの見通しを述べ、給与についても制度見直しと周期的見直しの両面で改善に努力することを約束した。

予算については、当面今年度N\$ 450,000の増額を提示したほか、要望に沿うように改善に努力すると答えた。

CETEの運営形態については、従って文部省全体のリストラの中で正式に組織的な位置づけが成され、その上で運営・予算面での改善に向けての政府承認が行われることになりそうである。

4-2 学校教育放送事情 (実地調査)

調査団はメキシコにおける学校教育放送事情調査としてクエルナバカのテレビ中学校、アグアスカリエンテスの地方局カナルセイス (CH6)、メキシコ市内では最大の民間放送局テレビ及びメキシコ工科大学運営のカナルオンセ (CH11) を視察した。

4-2-1 テレビ中学校

(1) メキシコの中等教育

メキシコでは中学校は3種類に分類されている。一般の中学校、技術中学校、そしてテレビ中学校である。このうちテレビ中学校はメキシコ全国におよそ9,000校(9,044校)あり、学級数は約30,000。教員の数約26,000人。通う生徒数は約51万8,000人である。

*詳しくは添付別紙を参照。

(2) テレビ中学校の目的と運営

テレビ中学校は、首都圏や都市圏以外の農村部いわゆる過疎地における教育システムとして、25年前からスタートしたもので、地元コミュニティーが用地を提供し、校舎建設に政府が補助金を出し、授業はテレビに使う。中等教育の普及を図り、不足しがちな教員の数をこれ

でカバーするのが主な目的であったが、テレビを使っただけの授業は番組内容が大幅に改められたこともあって、生徒の関心も高く、定着率もいいとの結果が出ている。教育委員会の話ではテレビ中学校に赴任してきた担当教諭と地元コミュニティーとの連帯も当初の計画通り進んでいるとのことである。

*詳しくは添付別紙を参照。

(3) テレビ中学校の授業と教員

テレビ中学校の授業は、クラスごとにUTEが制作した教育テレビ番組を視聴した後、各教室で教科書に沿って質疑応答や実習をすることにより進めていくことになっている。

担当教諭はテレビ授業を補足する存在であり、原則として各クラスごとに一人の担当が全科目を受け持っている。

テレビ中学校で教える教員は一般の中学校、技術中学校と全く同じ資格を持ち、即ち大学の教育学部を卒業し教員免許を取得した者であり、テレビを使った教育システムの研修を終了した者である。

(4) 実施調査

モレロス州の州都クエルナバカ郊外にあるイグナシオ・チクオンクワTV中学校を見学した。当校はテレビ中学校として25年の歴史を持ち、我々調査団が訪れた時はたまたまサマー・スクール=秋の新学期から入学する新中学一年生も含めた夏期補習コースを実施中で、およそ200人の生徒が登校していた。学校の敷地は地元コミュニティーの提供、校舎建設は政府の補助金によるという。およそ3,700㎡の敷地にコンピューター習得室もふくめて7つの教室があり、屋根にモレロス衛星を受ける大きなパラボナ・アンテナが2基立っている。授業で使う番組は生放送の場合もあれば、あらかじめVTRに収録・再生して使う場合もあるということである。各教室は、広さおよそ25㎡、生徒数は1クラス30~36人で、訪れた当日は歴史の番組を熱心に見入っている。授業は、各学科とも、

イントロ

TV視聴(17分間)

教科書でおさらい

質疑

学んだことを確認・実習

練習問題

というプログラムで進められ、担当教諭は日本でいう教師というよりはオルガナイザーの役割を担当している。

教育委員会の話では、番組ソフトに関しては以前はやたら先生の話が長く、画面もあまり変化せず、生徒たちの不満も多かったということだが、1991年から新しい番組ソフトが登場するようになってから、内容がかなり豊かになったという。

教科書はUTE自身が作成し、それを生徒に配付する、厳密に言えば貸し出すシステムになっている。

テレビ中学校の目的の一つに、学校と地域コミュニティーとの関係を強めることがあり、学校の建設によって道路、電気、水道、通信システムの改良という地域への利益還元のほか、各学校では農業の時間に農産物—例えばレモンやオレンジ、さらには養鶏等—を生産し地域の市場で売る等して、経費の自給自足に努めるとともに、地域とのつながりを深めている。

4-2-2 地方放送局

調査団の訪れた放送局はアグアスカリエンテ州にあり、テレビチャンネルが6チャンネルであることからカナルセイスと呼ばれている。ラジオ1波とテレビ1波を持つ。ラジオは1320KHz 1KWで朝6時から夜12時まで1日18時間放送している。テレビの放送時間は平日12時間(12~24)、土日は開始時間を早め、約16時間放送している。予算は50%が政府補助金、残り50%がコマーシャル収入である。職員は約100名。

テレビの放送番組の約65%が自主制作、35%が他局との交換番組である。番組内容はニュース、娯楽、音楽、文化、子供向け等多彩であり、州情報番組や州内を中継で紹介する番組を放送する等地元に着目した番組作りもしている。

設備面ではTVスタジオ3、中継車1台あり、VTRはUマチックまたはβカムを使用。スタジオ設備や送出設備は貧弱であるがVTR編集系は充実している。直接視聴者に視覚的に訴える部分に多く投資し、その他は多少犠牲にしている印象を受けた。財政的に苦しい地方放送局としてはやむを得ない実状である。

4-2-3 テレビ放送局事情

メキシコにおける放送局は以下の通りである。

① テレビサ

メキシコ唯一・最大の商業ベースの放送局。4つのチャンネル(CH2、CH4、CH5、CH9)を持ち、2波(CH2、CH5)は全国ネット、2波(CH4、CH9)は首都圏。そのほか、衛星を利用したラテンアメリカの情報発信センターでもある。CH9は8:00から14:00まで「テレビ中学校」を放送している。

② カナル11

文化教養の専門局。メキシコ文部省、国立工科大学の経営。放送エリアはメキシコ市及びその周辺。

③ テレビシオン・アステカ

以前メキシコ内務省が経営、今年民間に売却。2チャンネル(CH7、CH13)を持ち、CH13の放送エリアは全国をカバーしている。

④ カナル22

メキシコ文化・芸術院経営で今年6月開局。メキシコ市及びその周辺が放送エリア。放送時

間はまだ1日数時間程度である。

メキシコ市内では8つのチャンネルを受信できる。このうち4つのチャンネルをひとつの民間会社が運営している。そのテレビサは、巨大企業でその資金力・規模・設備ともにメキシコの放送界の頂点に立ち、「テレビ中学校」を制作しているUTEや大学系のカナル11等他の放送局を大きくリードしている。

以上の放送以外に市内では衛星を利用したCATVとして「カプレビシオン」(20CH)と「マルチビシオン」(18CH)の2社があり、多チャンネルの放送サービスを行っている。

その他特記すべきこととして、メキシコには「ラジオ・テレビジョン・映画連邦法」という法律があり、いかなる放送局であれ全番組の12.5%は政府・国家の教育、文化、政治に関する放送に充てなくてはならないと定めている。このため、テレビサでは「テレビ中学校」を放送している。